資料２－２
中央教育審議会大学分科会
大学教育部会短期大学ＷＧ（第２回）
H26.1.30

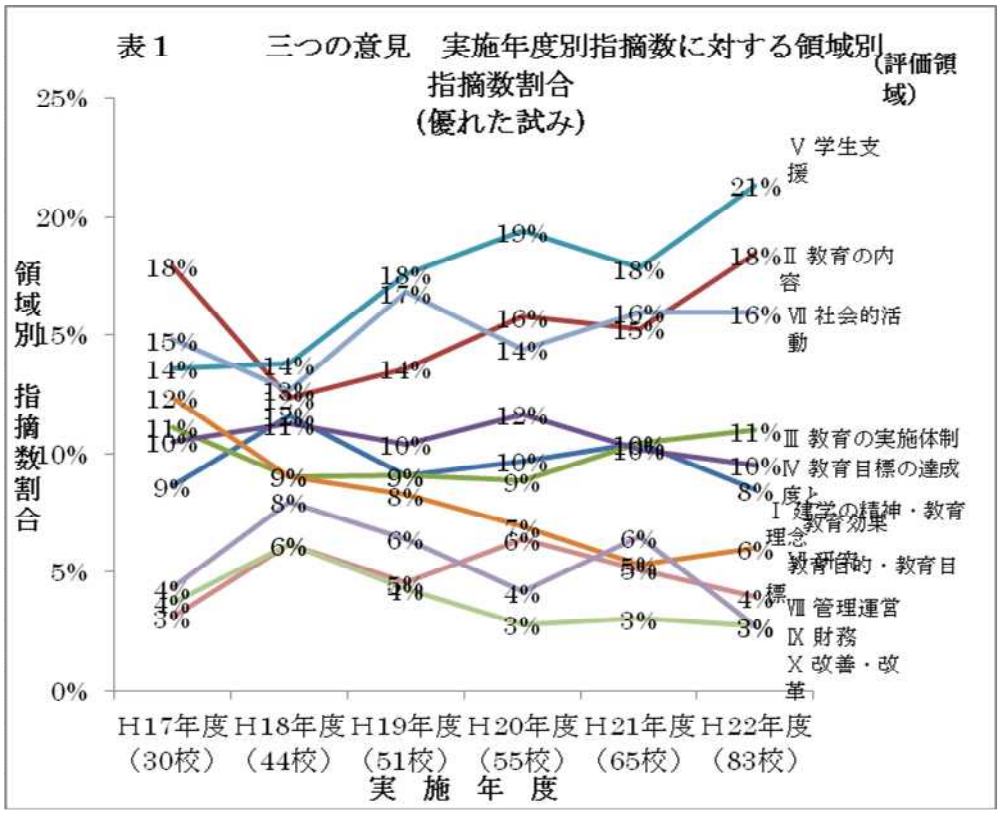
短期大学基準協会の第三者評価における
短期大学の優れた取り組み等について

一般財団法人短期大学基準協会

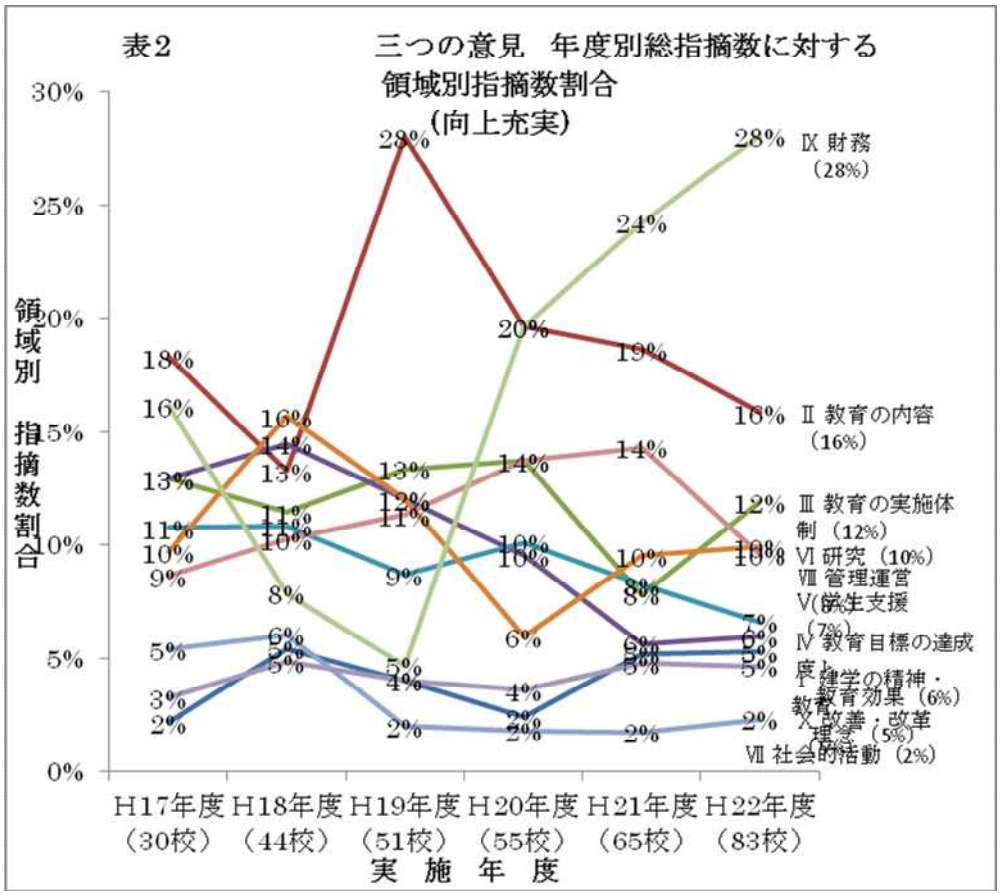
１．短期大学基準協会の認証評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち短期大学の水準を満たしているか否かの評価に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価を合わせて実施しています。したがって評価結果である「機関別評価結果」や「領域別評価結果」(第１評価期間)の判定とは別に、短期大学教育の向上・充実を図る観点から、「三つの意見」として、**「特に優れた試みと評価できる事項」**、**「向上・充実のための課題」**、**「早急に改善を要すると判断される事項」**を付し、短期大学の主体的な改革・改善を助長しています。

第１評価期間の各年度に付された「意見」の領域別の状況をみると**「特に優れた試みと評価できる事項」**においては評価領域Ⅱ(教育の内容)、評価領域Ⅴ(学生支援)、評価領域Ⅶ（社会的活動）に関して毎年度多くが取り上げられ、年々高い割合を示してきています。このことは、本協会の評価の特徴が教育を中心とした評価であること、各短期大学がこれらに積極的に取り組んでいること、短期大学の在り方として重要な地域に密着した活動を行っていることなどを示しているといえます。中でも、学習の動機付けからキャリア形成に至る学生の支援に関する積極的な評価が最も多くなっています。

「向上・充実のための課題」及び**「早急に改善を要すると判断される事項」**について６年間の評価を概観してみますと、特徴的な事象は評価領域Ⅸ（財務）です。意見の数が平成19年度評価の5%から平成22年度評価は28%と急激に増加しています。これは、近年の短期大学の財務状況を如実に表しているといえます。評価領域Ⅱ（教育の内容）も各年度高い割合を示しています。特に19年度は28%と高くなっていますが、それは設置基準の改正とも関連してシラバス記載事項の充実やＦＤ活動の充実を促す指摘が多くあったからですが、その後状況は改善されています。評価領域Ⅳ（教育目標の達成度と教育の効果）についても同様な傾向がみられます。評価領域Ⅵ（研究）はおおむね10%前後ですが、18年度は16%と研究活動の活性化を期待するものが多くありました。



評価領域	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
建学の精神・教育理念	9%	11%	9%	10%	11%	8%
教育の内容	18%	13%	14%	16%	15%	18%
教育の実施体制	11%	9%	9%	9%	10%	11%
教育目標の達成度・効果	10%	11%	10%	12%	11%	10%
学生支援	14%	14%	18%	19%	18%	21%
研究	12%	9%	8%	7%	5%	6%
社会的活動	15%	13%	17%	14%	16%	16%
管理運営	3%	6%	5%	6%	5%	4%
財務	4%	6%	4%	3%	3%	3%
改革・改善	4%	8%	6%	4%	6%	3%



評価領域	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
建学の精神・教育理念	2%	5%	4%	2%	6%	5%
教育の内容	18%	13%	28%	20%	19%	16%
教育の実施体制	13%	11%	13%	14%	8%	12%
教育目標の達成度・効果	13%	14%	12%	10%	6%	6%
学生支援	11%	11%	9%	10%	8%	7%
研究	10%	16%	12%	6%	10%	10%
社会的活動	5%	6%	2%	2%	2%	2%
管理運営	9%	10%	11%	14%	14%	8%
財務	16%	8%	5%	20%	24%	28%
改革・改善	3%	5%	4%	4%	5%	5%

「特に優れた試みと評価できる事項」として最も多く評価された「学生支援」の具体的な例としては、以下のようなものがあります。

○　レベルに応じた選択授業や再試験のための補習授業を行うなど、個々の学生に対応した学習支援が積極的に実践されている。特に入学時における、基礎学力不足を補うための授業体制として、学生３人に対して教員１人を配置し、短期間で専門科目になじめるように配慮している。

○　学長面談は、学習環境や大学生活全般に対する学生の意見や要望を率直に聴く場として多くの学生に利用されており、駐輪場の改善や売店・自販機の充実など、具体的な改善につながっている。

○　社会人学生の受け入れについては、4 年以上の社会人経験のある学生には授業料の半額減免を行い、秋季入学制度も実施するなどの具体的で意欲的な支援を実施している。また、社会人入試制度を説明したパンフレットを作成し、広報活動も活発である。

○　全学生のキャンパスライフ・カルテを作成して、入学から卒業までの情報を記録している。入学後に取得した資格・検定、ボランティア活動、サークル活動、学生生活状況、表彰・その他、卒業後の進路、チューターの所見などを記載したこの資料は、学生の教育すべてにいかされている。

○　入学試験合格者で入学の意思を表明した者に対して入学前説明会を開催し、教育方針と学習目標への理解を深め、入学までの期間を怠りなく過ごさせる工夫がみられる。また、入学後フレッシュマン・セミナー等をつうじて、確認と定着を図っている。

○　教職員一体の支援や短期大学の財政的支援を背景に、学友会等の学生の主体的な活動が活発であり、学生のほぼ全員がクラブ活動に参加している。地域社会での継続的なボランティア活動を展開しているサークルが、ここ数年続けて地元の市から表彰されるという実績を残している。

○「学習カルテ」によって学生個々の学習状況を把握し、アドバイザーが指導する体制になっている。保健室、学生心理相談室との連携にあっても、アドバイザー教員の役割は大きい。

○　各学科のフレッシャーズガイドは、大学で学ぶことの意義、授業のとり方、資格の取得、マナー、キャンパスライフ、2 年間で目指すことなどが入学生にとって分かりやすく書かれている。そのほか、カリキュラム、図書館利用法、キャリアデザインなどが含まれ、入学時に丁寧な学生生活指導をすることにより、カレッジ・ライフを有効かつ有意義にデザインすることができる。卒業後のキャリアを考える上でも、大変有効である。

○　退学、休学、留年等の問題のある学生及びその保護者に対して、担任を中心に副担任、学科長、専攻主任、教務、学生相談センターと連携して対応しており、どの学科、専攻も退学者が極めて少ない。

○　学科・専攻ごとに学生 30 人に 1～2 名の専任教員がアドバイザーとして配置されている。日常的な学習相談や生活上の相談、就職支援や編入学指導等、学生に対する個別支援が組織的に、またきめ細かく行われ、学生の退学や休学、留年等が最小限に抑止されており、安定した学園生活が保たれている。

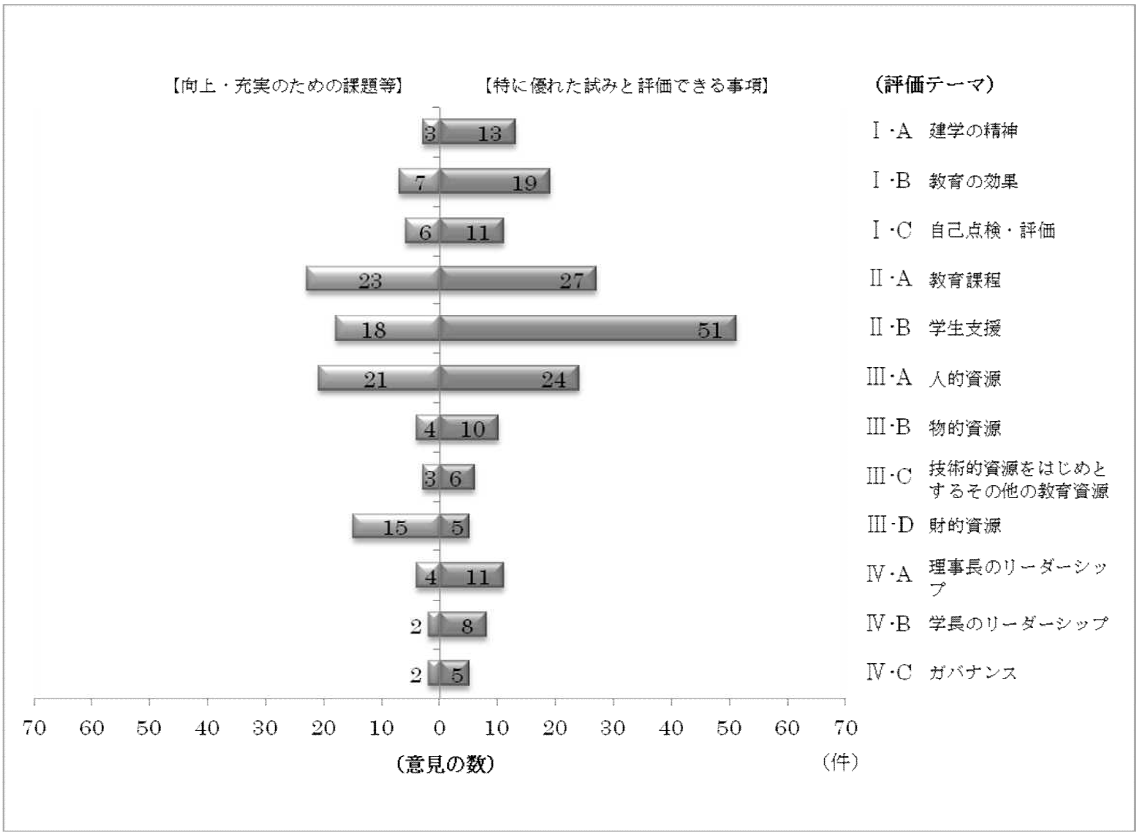
○　図書館内に学生が履修する科目に関連した図書をそろえたシラバス・ルームを設け、学生の履修選択や学習効果向上に寄与している。

○　初年次教育、リメディアル教育、キャリア教育と手厚い教育を行っている。キャリア教育分野では全入学予定者に対して職業に対する意識を醸成・形成させるため、キャリア・カウンセリングを実施している。基礎教育センターを設け、基礎学力の不足している学生のみならず、学生個々人の多様な目的に応じて学力のアップを支援している。

○　ピアノの補習を入学前から実施し、入学後は、授業時間外においても多くの時間を設定している。教員の並々ならぬ熱意を感じる。編入学についても、編入学指導委員会を設けて大学の説明から個別の受験指導まで系統的に支援している。そのため大学院まで進むなど、編入学先からの評価も高い。

２．平成 24 年度からは、短期大学評価基準を従来の 10 の評価領域から、4 基準に改定しました。平成 24 年度の三つの意見を概観しますと、**「特に優れた試みと評価できる事項」**については、第 1 評価期間と同様、「学生支援」（学習上の悩みや健康等様々な問題に適切な指導助言を行うための体制を整備し、学生に対するきめ細やかな指導に役立てている　など）が 51 件（27%）で最も多く、次いで「教育課程」（学生自身が学習目標を設定し、学生が自らの学習成果を確認できる仕組みを取り入れている　など）が 24 件（14%）と多くなっています。

評価テーマ別にみた　三つの意見の数（平成 24 年度）



特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅱ　教育の内容（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
1	17	教養ゼミナール（通年1単位）を開講し、担当教員と学生との人間的接触の機会を設けて相談に応じクラス担任、オフィスアワーとしての機能を持たせている。
2	17	同僚相互による授業参観、教員研究発表会、学生とのフリートーキング等多岐にわたる教育改善の努力が継続的に行われている。
3	17	卒業研究の必修化とその全員による発表会等、高等教育研究改革推進経費の予算計上やテュートリアル授業の公開等、教育方法の改善・向上に取り組んでいる。
4	17	海外研修を必修としており、国際的理解の涵養に努めている。
5	17	教育目標の達成のため全教員が共通の認識と理解をすることに、大きな精力を注いでいる。そうした基盤づくりのために、いち早くFD活動、さらにはスタッフ・ディベロップメント（SD）活動を実施している。
6	17	卒業生による授業評価を実施し公表している。
7	17	2年次当初に基礎学力テストを実施し、自己認識を高める配慮をしている。
8	17	必修科目「○○（*大学名*）教育Ⅰ」では、シリーズコンサートなどを通して、感性の教育を行っている。
9	17	○○学科（*学科名*）では、学生が8つのフィールドの中から自分の進路にあったフィールドを選択できるようになっており、学生の多様なニーズに応える工夫がなされている。
10	17	情報教育においてコンピュータリテラシーからコンピュータアート等最新の技術まで多岐にわたる科目が開設されている。
11	17	国際理解教育として○○大学（*海外の大学名*）コミュニティー・カレッジとの教育提携による相互訪問が実施されている。
12	17	授業改善に関する取り組みとして実施されている毎月1回の授業事例研究会、授業参観週間を設定しての相互授業参観、事後の研修等は、学生の視点に立った授業づくりへの効果的な活動であると考えられる。
13	17	教養教育を教育全体のベースと考え、それぞれの教員が真摯に受け止め教育改善に取り組んでいる。
14	17	学科レベルで、教え方に関する自発的なアイディア・シェアリングを行ったり、学生の動機付けを向上させるために、科目選択の自由度を上げる努力をしている。
15	17	教養教育を、「人を敬い、謙虚に生きる知性、そして自信に満ちた判断と行動を実現する教養と思想の力を養う」と明確に定義し、○○校舎では現代文明論、総合教育、外国語、体育科目、加えて専門の基礎の意味を持つ情報リテラシー、自己表現、問題解決科目等、静岡校舎では現代文明論、総合教育、外国語、体育及び自由履修科目等、多くの科目を開設している。
16	17	○○学科（*学科名*）の科目自由選択制は、学生の多様なニーズに応える制度である。この制度は、場合によっては学生の科目選択が安易に流れる傾向を生むが、この傾向をどこまで抑制し、自由な科目選択の中で学生に力をつけさせるか、情報・ネットワーク学科の今後に期待したい。
17	17	授業方法のplan, do, check, action機能を備えたウェブサイト上のシラバスは学生にとって分かりやすく、また利便性がある。「FDメールマガジン」による活動報告及び教育改善に関する情報を全学的に共有できることは、教育レベルの向上に効果があると考えられる。
18	17	より実学志向を強め、広く自己開発科目を設けるなど、資格取得を支援するための授業時間割上の工夫が見られる。
19	17	ネイティブ教員が常駐するイングリッシュラウンジを設置し、学生がいつでも訪ねられるようになっており、語学能力の向上を目指している。
20	17	他学科の科目履修や、首都圏西部大学単位互換協会加盟等優れた試みがなされている。
21	17	教員相互の授業参観を実施している。
22	17	授業改善への組織的な取り組み状況として、「教育内容改善委員会」による授業評価の見直しと、教育内容の改善に関する学習会が行われている。
23	17	取得可能な免許・資格が極めて豊富であり、学生の多様なニーズに応えるものと認められる。
24	17	授業評価（年2回）の結果は、図書館で公表されている。学生の授業に対する満足度も概ね良好である。また、学生のコメントや意見のみならず、各教員が相互に授業見学を実施し、相互理解を深め、授業改善に役立てている。
25	17	習熟度別によるクラス形態をとり、きめ細かく指導していることは好ましい努力と認められる。
26	17	科目群の構成、①自己の確立群、②コア基本群、③コア展開群等の内容の密度が高く、アカデミック・コーディネータのもとに、リエゾンやクラス・チームリーダーが協力して授業科目のクラス間の調整を行い、大きな成果を上げていると判断される。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅱ　教育の内容（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
27	17	教育効果を、個々の学生にフィードバックする実践努力に見るべきものがある。
28	17	大阪カレッジネットワークや併設の2大学等と単位互換協定を結び、単位互換の実績を挙げている。
29	17	多くの科目で習熟度別小クラス制度を採用しており、学生の習熟度に応じた適切な教育がなされている。習熟度の高い学生に対しても、IESプログラム、ESL特別コース等、能力を最大限に伸ばすための教育施策がとられている。
30	17	社会の変化に対応して、保健科・歯科衛生士コースを3年制に改組する等、改革・改善への取り組みがなされている。
31	17	保育科と保健科においては、いくつかの履修コースを設定し、各種の免許や資格取得への配慮がなされるとともに、卒業要件に対する必修を少なくする工夫や系列任意単位の設定により、学生の選択の自由が保障されている。
32	17	講義要目は、学生便覧と一体型で、コンパクトサイズで持ち運びやすく、活用しやすく工夫されている。
33	17	幅広い分野に及ぶ科目の開講、外国語科目の充実、編入試験対策、実践対策講座を実施している。
34	17	毎年1回「教育・研究・社会活動」等に関する「自己申告書」や授業評価アンケートを踏まえた「授業改善報告書」を各教員が作成する等、具体的に授業改善に努めている。
35	17	常勤教員と非常勤教員との交流会を全学科・専攻で実施している。
36	17	「人間関係力養成支援プログラム」が平成○○年度特色GPに採択されており、教育内容の優秀さを示している。
37	17	多様な学生を受け入れ、その学生達のニーズに対応するために、学科改組、幅広い選択科目の設置、フィールド＆ユニット制の採用、セミナー＆チューター制の導入等の改革・改善を継続的に行い、その教育内容が受験生に受け入れられている。
38	17	授業に関する改善には力点を置き、継続的な努力が認められる。
39	17	授業担当者間の意思の疎通、協力、調整について、平成11年度より専任、非常勤を問わず、組織的に取り組んでいる。
40	17	ライフプランニング総合学科のユニット履修は、専門分野を包括的に把握することができる優れた履修方法である。バイキング方式を学際的視点から体系付けようとする工夫が見られる上、教養科目が適切にカリキュラムに組み込まれている。
41	17	兼任を含む教員からカリキュラム検討の企画を募集して改善を図り、またFD委員会通信を発行し、FD活動をスムーズに展開している。
42	17	単なる知識・技術の伝達ではなく、自ら求めるその道を追求して行く人材の養成が行われている。
43	17	地域社会との活動を展開しており、ボランティア体験を取り入れている。
44	17	教育課程の改善やFD研修会等を行い、その報告書をまとめ、学生のニーズに応えようと努力している。
45	17	各学科に複数の資格が用意され、学生の努力次第で多くの資格が取得できる仕組みになっている。
46	17	栄養士養成課程において、地域に密着した「○○（*特定地域名*）食育学」の設置は、ユニークである。
47	17	英語科の能力別・習熟度別クラスの効果が英検等の資格取得に効果をあげ、食物科では学生面接、先輩の話、保育学科では、保育行事見学、個別面談等学生が意欲をもって学習できるような工夫改善の努力がなされている。
48	17	教養教育の内容は幅広い分野でなされている。特に「地域子育て支援」、「読む聞く書く話す入門」は時機を得た内容である。また「人間の研究Ⅰ・Ⅱ」は建学の精神を具現化している。
49	17	平成○○年に「日本一の地方短大を目指す全学的FDの取組」の名称で特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）に採択されたことは、授業取り組みの意欲のあらわれであると考えられる。
50	17	FD活動の一環として学科ごとの公開授業と授業研究会が実施されている。
51	18	単位取得と検定受験による資格取得などのキャリア教育への積極的な取組みがなされている。
52	18	○○市内の大学・短期大学で実施している「グリーンキャンパス制度」に加盟、学生のニーズの多様化に対応した取組みを行っている。
53	18	毎年、公開授業月間を設け、授業公開を実施し、終了後、検討会を開催するなど、継続的なFD活動がなされている。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅱ　教育の内容（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
54	18	教育目的・目標を具体的に実施する科目としての「マナー演習」をはじめ、社会的経験を積む機会を重視し、学生が実践的に子どもと関わる機会を作ることができる教育内容となっている。
55	18	ファカルティ・ディベロップメント（FD）、スタッフ・ディベロップメント（SD）や教員間の交流による授業改善が行われており、海外研修、TOEIC受験対策、福島市内の四年制大学・短期大学との単位互換や情報処理教育など積極的に学生のニーズに対応した教育をしている。
56	18	学生の免許・資格取得のために、短期大学全体で取組んでいる。
57	18	授業は少人数規模中心で行われ、学生の学習条件整備に積極的である。
58	18	専門科目において、コミュニケーションやプレゼンテーション能力を養うことが重視されている。教養教育の充実、特に学習の基礎に力点が置かれている。カリキュラム内容全体が、学生ニーズに広く応えられる内容になっている。3年に1度の授業参観などFD・SD委員会は活発に活動している。さらに授業改善に対する積極的な取組みに優れた点を見いだせる。
59	18	総合教育に「日本語表現法」を含む必修科目群を置き、また、選択の総合科目群はポリシーの感じられる設定になっている。
60	18	教職員が一体となって、「日本一の短期大学を目指す」取組みが教育改善などに反映されている。
61	18	英語と情報演習を現代の短期大学生の修得すべき科目として必修にした上、その学習歴を配慮しつつ、非常な努力をして学習させている。
62	18	優れていると判断されることは、教育課程編成委員会を設置し教育課程の見直しを組織的に取組んでいること、体験的・実践的な実務教育に力を注いでいること、シラバスと授業ガイドの二種類の履修案内を作成し配布して学生が履修について深く理解できる仕組みにしていること、音楽体操学校としての伝統を継承する「創作オペレッタ」を継続的に実施していること、受講生が一名でも授業を開講して学生のニーズに対応していることなどである。
63	18	副教材の作成、情報機器の使用のほか、授業を映像で記録し、学生の再聴講や欠席学生への補講に活用する対応を進め、効果をあげている。
64	18	改組転換を契機に、総合ガイダンスセンターを設置し、「スタディ・スキル科目」、「キャリア・デザイン科目」、「芸術文化科目」を開講している。各期に目標設定をしている。個人レッスン、マンツーマンと少人数クラス制による、きめ細かな教育を提供している。「高校生のための演劇セミナー」を実施し、演劇を志す高校生の底辺拡大を支援している。
65	18	少人数教育による教育効果向上への努力がなされている。
66	18	看護の基礎理論と看護技術に関わる科目では、科目間の内容の重複や漏れを避けるため、科目担当教員の意見を調整して「看護教育に関する技術マトリクス」を作成し、次年度シラバス作成に活用している。
67	18	看護学教育には理論と実践が必須であるため、原理原則の講義後に学内演習を組み入れるという優れた学習形態をとり教育効果を高めている。
68	18	学生による授業評価は全国の大学に先駆け早期より毎年実施され、学生の意見をフィードバックし、教育方法の改善に努力している。
69	18	当該年度で最も高い評価を受けた授業（教員）を表彰（Teaching of the Year）し、表彰された教員は全教員に対する教授法のアドバイザーとして、授業の公開と教授法研究会を開催し、継続的に教育力の向上に努めている。
70	18	人間総合学科は、学生の多様なニーズに応えられるように、免許・資格取得を軸としたユニットを設定して体系的なカリキュラムが編成されている。幼児教育学科は、質の高い保育者の養成に向けた独自のカリキュラム構成がとられている。
71	18	ビジネス実務学科の『キャンパス内におけるキャリア教育～意識変容への挑戦～』など特色ある短期大学教育が展開されている。
72	18	文部科学省の平成○○年度特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）、平成○○年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に採択されるなど、学生の多様なニーズに応える特色ある教育に取組んでいる。
73	18	全ての教員が「事業計画書」を作成し、その結果を学内に公表している。
74	18	食物栄養学科において「医事管理士・医療管理秘書士」の資格取得科目を設置している。
75	18	建築・インテリアコースの、1級建築士受験資格（実務経験4年）をはじめとして全学で19の免許・資格・受験資格が取得できる教育課程が用意されており、学生や社会の多様なニーズに応えている。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅱ　教育の内容（H17～H22）

No	評価年度	(1) 優れた試み
76	18	カナダの○○（カレッジ名）と姉妹校提携をし、カナダ語学研修、海外幼児教育研修、カナダ4ヶ月留学、海外研修旅行、留学生の受け入れなど、海外研修や国際理解に積極的に取組んでいる。
77	18	専任教員が年1回授業公開を実施し、「教員相互の授業公開結果の報告書」を作成している。
78	18	2年間にわたるセミナー教育は少人数によるクラス体制で、最終的に卒業論文に至るプロセスとなっており、学生が積極的に参加できる教育内容である。
79	18	授業評価の結果を教員別、講義別に学内掲示やインターネット上に公開し、講義の改善・向上に役立てている。
80	18	実務教育、職能教育が充実しており、学生にわかりやすい授業内容に即した科目名称が設定されている。そのことにより学生一人ひとりの目的・目標に沿った学習が系統的に行えるものと判断される。また、コースの垣根を低くし、学生が学びたい学科目を学習できる点は評価できる。
81	18	教養教育における「音声表現」、「身体表現」、「造形表現」など芸術系の科目の設置、「情報機器の操作」という時代のニーズに合致した科目を設置し、創意と工夫による学生の自己表現能力の伸長などに役立っている。こうした独自のカリキュラム編成は高く評価できる。
82	18	○○市の「○○市学生ボランティア学校サポート事業」への参加学生に単位認定制度を設けている。
83	18	建学の精神に合致した教育方法の具体化として、学生の授業評価に加え、授業公開の試み、カリキュラムの改善調査などは評価できる。
84	18	完成度の高い「履修ガイド」が充分に活用されている。共通の教養科目「湊川のあゆみ」は注目できる。高等学校との連携、留学生対象の日本語教育が評価できる。
85	18	学生による授業評価に対する教員のアンケート調査ならびにFDを実施し、さらに、授業担当者ならびに非常勤講師間で意思疎通、協力・調整について改善が図られるなど、授業の改善に積極的に取組んでいる。
86	18	全体に少人数のクラス編成になるよう配慮されている。「ソルフェージュⅠ・Ⅱ」の授業において習熟度別授業が行われ、単位取得率を高めるなど教育効果を上げている。
87	18	教育ツールおよび授業法の共有活動、習熟度別授業の実施、資格取得支援のための個人指導、再履修科目の設定など教育効果向上の努力が組織的に行われている。
88	18	授業アンケートによる学生の満足度に配慮し、授業改善の認識と質的改善を目指し、分かり易い授業への不断の努力をしている。
89	18	一般教養科目の改善を行い、学生実態への教員調査を実施している。
90	18	3学科とも、導入科目から展開科目、さらには資格取得関連科目にいたるまで、充分な数の専門科目を提供し、免許・資格の取得が重要な教育目標の一つであることを、明確に打ち出している。
91	18	現代社会において必要とされる教養教育のために「自己表現論」という科目を設け、全学生を少人数グループに分け、徹底した教育指導を行っていることは、優れている。
92	18	共通科目の成果として、学生制作発表会に全学で取組み、地域周知の行事にしていること、および飯塚市チャレンジプロジェクトの採用決定により、学生が誇りを持って社会に巣立てることは「敬・愛・信」の教育理念の具現化として評価できる。
93	18	Good Teaching賞受賞の教員による公開授業は、各教員の授業改善・向上を高める上で大いに役立つ。また資格取得に対する教育体制も評価できる。
94	18	学生のニーズを見極め、社会ニーズにも応えられるよう絶えず改善の努力がなされている。特に、食物栄養科では教養教育の中に国際理解の立場から台湾での海外研修を取入れたり、栄養士の資格取得を第一目標としながらも中学校教諭、フードスペシャリスト、司書教諭などの資格・免許も取得可能な課程としている。さらに調理技術確立のための「基礎調理」（一年入学時、集中講義）はユニークである。初等教育科ならびに保育科の「研究会活動」はゼミ形式で教員と学生の交流の場となっている。
95	19	教養科目に「北海道学」や「女性学」、「異文化理解と多様な世界」などを開設し、その充実を図っていることは、学生への多様なニーズに応えるとともに、建学の精神や学際的な課題に適切に対応するものである。
96	19	少人数ゼミナール制の指導教員を中心にきめ細かな学生指導を行うとともに、農業体験の実習や「○○祭り（地域のイベント名）」の大雪像のデザインなどのゼミナール活動を実施していることは、地域との積極的な交流を通して学生の専門に対する関心や理解を深めるものである。
97	19	国際理解を深めるために、提携大学への研修やJICAの研修事業委託を引き受けている。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅱ　教育の内容（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
98	19	進度別、習熟度別少人数クラスを設け、教育の効果に配慮している。
99	19	アイヌ語やアイヌ文化を学ぶ授業を開設し、地域の伝統文化に根ざした独自の教育を行っている。
100	19	英語嫌いの克服と酪農学科の特色をいかした「酪農英語」科目の設定とその講義内容は興味深いものであり、英語教育の新たな試みである。
101	19	教養教育に赤十字分野「赤十字概論」や「災害看護論」などを設け、「赤十字」の歴史と伝統を実践力として培う取組みをしている。
102	19	授業改善（ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動など）への取組みが活発である。平成16年度には県内大学・短期大学で組織されている「地域ネットワークFD○○」の当番校として第一回目が実施され、平成○○年度まではFD推進委員会が担当し、平成○○年度には「教育開発研究センター」が設立され、FDに関する業務をすべてとり行うことになっている。
103	19	地域の幼稚園や保育所、行政機関と連携した「○○（*地域名*）幼児教育研究会」の活動は活発である。
104	19	授業評価結果で高い評価を受けた教員による公開授業が行われ、さらに、授業について討論会を実施するなど、授業改善に向けて積極的な努力がみられる。また、この内容を報告書にまとめて公開している。
105	19	学生による授業評価が実習用と講義用に分けて実施され、そのいずれにおいても極めて高い評価を得ている。
106	19	学生による授業評価のみならず、教員間の授業相互参観を行い、授業改善にいかしている。
107	19	両科の学生全員による農業体験学習を通して、幅広く生命と深く関わり、命と向き合う職に就くという学生の自覚を促している。体験的農園経営が行われ、今の若者に希薄な作物の生育を直に感じる企画を実施している。
108	19	学長自らが実践栄養学演習を担当するなど、当該学園の教育理念である実践栄養学に配慮した専門教育課程が編成されている。
109	19	教養科目として「ヒューマニズム論」、「人間」をはじめ、生命、人間、社会などの領域で、建学の精神や教育理念を反映した豊富な科目が開講されている。
110	19	平成18年度特色GPに採択された「子育て広場」における地域社会での実践を活用して、独自性を発揮した「子育て広場特論」を開講している。
111	19	課外授業として総合的支援システムを立ち上げ、レベルの高い資格・検定を取得させることで学生のモチベーションを向上させている。
112	19	習熟度別授業、海外研修、インターンシップなど学生のニーズに応える多くの取組みが積極的になされている。
113	19	「学生による授業評価アンケート」を毎年行い、その結果に担当教員のコメントを付けて冊子にして公表していることはよい試みである。
114	19	多数のネイティブスピーカーを配置し「チャット・ラウンジ」を設置し、授業とは違う自由な雰囲気の中で学生が自発的に学習できる学びの場を提供している。その成果は、学生が○○（自治体名）私立短期大学協会主催「学生英語スピーチコンテスト」で2年連続優勝したことにも結びついている。
115	19	多数の専門科目に加え芸術系・外国語系を含む幅広い教養科目を開設し、しかも併設大学の科目履修も可能にしていることは、学生の多様なニーズに応えるとともに自発的学習意欲を引き出すものである。
116	19	教養科目を「日常生活の広がりの中で実際に活用できる能力」と積極的に位置づけ、「社会人とマナー」などの自己表現科目群にみられるように専門科目につながるよう工夫されている。
117	19	国際理解が福祉の観点から捉えられ、ユニークな授業科目「インターナショナル・ソーシャルワーク」が開設されている。研修先として韓国の児童養護施設があげられていて、「韓国語コミュニケーション」を新設するなど、国際理解教育の内容、水準を高める努力がなされている。
118	19	保育学科において、○○市と共催の「○○子育て支援（イベント名）」に参加していることは、学生にとって貴重な実践教育を提供するものである。
119	19	総合教育科目Ⅰとして、「開明講座」、「教養講座」が設定され、総合教育科目Ⅱのなかに充実した教養科目が開設されている。特に人文科学系の2分野に多数の科目が配当されている。
120	19	教授システム開発室の設置により、プラン・ドゥ・チェック・アクション（PDCA）システムを導入した「授業改善プログラム」が実施され、ニュースレターにも掲載して意識高揚に努めている。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅱ　教育の内容（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
121	19	専攻科食物栄養専攻の教育課程は、オムニバス方式の授業が多用されており、常に新しい授業内容の導入に努めている。各学科に学生と教員からなる「教育課程懇談会」を設置し、常に教育課程について自己点検している。
122	19	授業の相互参観、授業評価報告会、兼任講師との懇談会、講演会など、年間を通じて多岐にわたるFD活動が展開され、授業内容・教育方法の改善に取組んでいる。
123	19	授業評価アンケートが科目名、担当者名、担当者の考察結果を添えるなど、透明性の高い形で実施されている。
124	19	学生が体系的に履修できるような工夫がされており、教育課程表で科目が分野別・ユニット別に示されていることで、学生が履修計画を立てやすくなっている。履修指導についても教員がきめ細かくサポートしている。
125	19	教員による自己授業点検報告が行われており、ファカルティ・ディベロップメント（FD）は得てして学生による授業評価だけで済まされていることが多いが、当該短期大学では、担当教員も授業を自ら点検・報告することで授業改善に対する取組みを促す工夫がされている。
126	19	保育科において、ほとんどが選択科目であることは学生の多様なニーズに応えるものとなっており、その意味において、オリエンテーションやアドバイザーによる個別指導がきめ細かに行われている。
127	19	「良き医療人」に必要な「実践力と創造力を体得する学際的卒業研究」が特色GPに採択され、優れた成果をあげている。
128	19	開学以来継続されている学科共通必修科目「アセンブリ」は、将来の医療人としての職業意識を高めるとともに、学科・学年を越えた学生間の協調性などを涵養するのに役立っている。
129	19	特別実習科目を設置し、教室以外の学習を積極的に評価し単位化している。
130	19	学生による授業評価の結果をもとに、全教員が「授業改善計画書」を、FD委員会を通して学長に提出するなど、授業改善への取組みがなされている。
131	19	学生の教育にあたり、学生の理解の程度によって、工夫を凝らした独自のユニークなグループ化を行い、個人指導を含めた細かな指導体制を確立している。
132	19	保育学科において、「認定ベビーシッター」資格の取得、「認定ピアヘルパー」受験資格の取得を目指した講座の開講は、「子どもの心を理解し、子どもと同じ目線に立った対応ができる保育者の養成」の教育目標の実現と、学生の新たなニーズに対応したものとなっている。
133	19	加工食品全般にわたる製造技術習得のための専門教育はわが国唯一のものであり、充実した施設設備を有し、高度な技術教育を行っている。
134	19	各期末に全教員に『授業計画（シラバス）』に記載している内容と実際の授業に乖離がなったかを検証するための「授業実施報告書」を提出させ、それを印刷・製本し、配布している。
135	19	「授業改善を進める」という教育の基本的な考えを常々推し進めようという努力が、「授業改善事例報告」を提出させるだけでなく、冊子としてまとめ教員研修会において役立てるなど、教員間の共有化により、授業改善への意識向上につながっている。
136	19	保育学科の小冊子「カリキュラムの考え方と特色」は免許･資格取得のもと、多岐にわたる保育学科のカリキュラムを学生にわかりやすく解説したものである。
137	19	教養科目の「ボランティア」は時代のニーズに応え、しかも学生にはよい経験を積む機会となる科目である。「香川学」は地域の歴史を知る上でよい機会となる。
138	19	平成2年度から開催されている全職員研修会や平成18年度から実施の専任教員の授業公開の取組みは、意欲的なファカルティ・ディベロップメント（FD）活動としている。
139	19	シラバスが丁寧でわかりやすい。一般目標・行動目標・教育方法・評価法・教科書・参考書がわかりやすく記載され、各回の授業テーマに、大項目・小項目・細項目が明示され復習しやすくなっている。
140	19	「要介護者の口腔ケア」を実践できる歯科衛生士、介護福祉士の育成を目的に、平成12年度より両学科の相互乗り入れが開始され、その取組みが平成○～○年度の特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）として採択された。
141	19	特色ある大学教育支援プログラム、現代的教育ニーズ取組支援プログラムへの申請を毎年行っており、平成18年度には他大学と共同ではあるが、これに採択された。
142	19	長年にわたって学生による授業評価を全科目に対して行っている。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅱ　教育の内容（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
143	19	「特別演習」という科目を設けて、アドバイザリー制度をより活用させる努力がなされ、入学時の単位取得の指導から就職の指導まで、きめ細かな学生指導が行われている。また、パソコンや英会話などの授業では、習熟度別にクラス分けをして、個々の学生のレベルに合ったきめ細かな指導ができるよう配慮されている。さらに授業においては一般的に少人数教育を行っている。
144	19	英語学科1年生の全寮制は、ネイティブ・スピーカーの女性教員が寝食をともにして指導に当たるなど学習効果を高め、さらに海外研修を通して、学習のモチベーションを高めている。
145	19	英語科特色GP（平成○○年採択）が、国際化教育を鹿児島の精神風土の中で培った英語力を涵養する実践として、現在も継続されている。
146	20	各学科共通の専門科目として「開放科目」を開設し、選択の幅を広げるとともに、免許・資格取得にとらわれない学生のニーズにこたえている。
147	20	自立した女性の育成を目標とした「情報リテラシー基礎」「キャリアデザイン」「日本文化入門」を必修としている。
148	20	英文学科では、CASECを短期大学負担で実施しているほか、ゼミナール以外のすべての必修科目と選択科目の一部を習熟度別クラス編成で行っている。
149	20	経営学科では、特色科目として「エリアビジネス研究」を設け、地元企業の経営者を講師として迎えて実践教育を行っている。また、三つの専門科目を四つの分野に分け習熟度の高い学生に対応した教育課程を配置し、各種検定試験にも対応している。
150	20	情報教育（情報リテラシー基礎・応用）は多くの講座を開講し、「振替受講システム」により100パーセント受講を保証している。
151	20	環境農学科では農業生産者の高齢化、後継者不足に対して農業の活性化のための「新規就農コース」を創設し即戦力の実践教育を行い、「農場公開デー」や「農業セミナー」など地元と密着したプログラムを実施し効果をあげている。
152	20	経営経済科では独自の「特別専攻フィールド」を設け、北海道観光に関する科目を用意している。
153	20	保育科及び全学をあげての「総合芸術（ミュージカル活動）」は創造的総合学習としての性格を持ち効果的である。
154	20	英文学科の特色GP、現代GPに採択された取り組み、実用英語技能検定の優秀な学校としての「文部科学大臣奨励賞」の受賞、生活創造学科の「履修モデル」の設定など教育課程が、体系的に編成され、改善への努力も不断にされ、社会的評価も受けている。
155	20	看護学科においては学生の看護実践能力を高めるために「総合判断育成演習Ⅱ」をおき、外部の臨地実習指導者とともに教育が行われている。
156	20	現代教養講座の中の必修科目として、学校生活を充実したものにするために、新入生に「大学生であることの自覚」「創立者についての理解」「学園の教育理念の理解」「学習作法の修得」「公民としての自覚」を高めるよう全教員による「心の充実」の授業が行われている。
157	20	多様な専門科目群を用意し、それらの履修を領域によって体系化している。そして、この領域には専任教員をチューターとして配置し、学生の履修などの相談に応じている。また、こうした専門科目は少人数教育を徹底し、授業の形態も講義一辺倒にならないよう、工夫されている。
158	20	学生による授業評価を各期の半ばに実施し、その結果を直ちにフィードバックし授業改善計画に生かすよう配慮している。
159	20	平成18年度より学生の教養教育支援のために『私のステップアップノート』の作成を開始したが、この取り組みは平成○○年度文部科学省大学教育高度化推進特別経費「高等教育研究改革推進経費」の補助対象と認められた。平成○○年度においても、更に加筆し内容を充実させて教育的効果をあげている。
160	20	当該短期大学の免許・資格などの取得への配慮として多様な施設へのインターンシップを健康栄養専攻、健康スポーツ専攻共通の科目として実施している。
161	20	人間生活学科では、専攻ごとに「特別演習Ⅰ・Ⅱ」を開講し、1泊2日の研修である「フレッシュマンセミナー」を開催したり、研究発表の場を設けたりするなど、主体的に行動し、周囲と調和のとれる人材育成を目指す姿勢を打ち出している。
162	20	個々の授業において最低到達ライン（Minimum Requirement）を設定し、その効果測定とフォローを行い学生の習得度向上に取り組んでいる。
163	20	教育研究の機会が非常に多く設けられ、授業改善のためのファカルティ・ディベロップメント（FD）活動は非常に活発である。特に、年度始めに全学園教員参加で開催される学園研修会や学園の各学校教員との相互の授業参観を行う「教科教育分科会」は、同一の教育理念を持つ学園としての共通意識を持つのに役立っていると思われ、一貫教育の利点を生かしている。
164	20	海外留学のプログラムは短期派遣・長期派遣など五つ用意されており、非常に充実している。
165	20	毎年、イギリス・イタリアなど海外から音楽・芸術関係の教授などを招聘し、学生への個人レッスンや公開講座、コンサートを開催するなど、国際交流が行われている。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅱ　教育の内容（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
166	20	「ピアノ」、「うた（アカペラ・弾き語り）」の能力を習熟度に応じて確実に身に付けることができるよう、年間を通して「音楽検定」を行い、合格を義務付けることで、能力アップに効果をあげている。
167	20	「着ぐるみ人形劇『ぐりとぐら』」などの公演は市民にも公開されており、その出演者である学生が履修する専門選択科目「総合表現（ぐりとぐら）」などの授業と相まって学生が保育の学習に意欲的に取り組む契機となっている。
168	20	総合教育科目の中で、教養科目がしっかりと位置付けられるとともに、「人間・キャリア科目」群では、女子職業教育の特色がみられ、教育課程を通してどのような学生を育てようとしているか、教育目標が明確である。
169	20	授業科目の中の「セミナー・コミュニティ」では、地域との連携によって、地元食材を生かしたコンビニ弁当を開発するなど、地域とともに学ぶユニークな教育が展開されている。
170	20	総合文化学科では、学生のニーズに合わせて多種多様な科目を設置しつつ、フィールド制を採用し、魅力ある科目履修の幅を広げている。
171	20	「フィールド・ユニット制」を取り入れた教育課程編成により、多数の科目が幅広い分野にわたり設置されており、学生の興味を引き出し学習意欲を高めているとともに、学生の多様なニーズにも十分こたえている。
172	20	進路支援を内容とするキャリア教育をベースとして課程教育を編成することで、学生が専門科目の実社会における有用性を実感し、目的意識をもって学習に取り組むことが可能となっている。こうした教育方法は「キャリア教育をベースとした課程教育の展開」というテーマで平成18年度特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）に選定されている。
173	20	「行学一体の教育」の建学の精神に基づいた科目編成として、実践を重んじている。
174	20	学科の特性から専任教員率が高い状況にあるとともに優れた教育内容を保障している。
175	20	五つの履修コースを設けて学生の希望に対応している。
176	20	資格の取得については二級自動車整備士だけでなく、ガス溶接技能講習、アーク溶接作業特別教育など、他の資格取得に向けても配慮され、また、学生のニーズや興味に対応して、選択科目も多く配置されている。
177	20	入学時に学生自身が卒業までの学びをおおむね把握できるよう、2年間の履修登録を行わせ、担任教員が指導・確認し、また、学生と担任教員が履修登録票を一部ずつ持つなど担任の履修指導体制が整っている。
178	20	国土交通省の自動車整備士養成施設（二級課程）の指定を受けた認定短期大学としての専門科目が充実している。特にハイブリッド車を取り扱うための「低電圧取扱特別講習」の開講を準備するなど、時代のニーズを取り入れる姿勢は特筆される。
179	20	多くの免許・資格、当該短期大学独自の認定証が用意され、各種発表会やコンテストなど学生のニーズと学習意欲を高める工夫が随所でされている。
180	20	当該短期大学は教養科目として、また「環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度」に参加し、びわ湖の特徴を生かした「近江学」、「滋賀の食事」などを単位互換科目に設定し、遠隔授業などの実施により学生が修得している。
181	20	授業内容、教育方法及び評価方法はシラバスに記載されている。シラバスについては、「教員相互授業参観」、「担当教員e-mail」などの項目が盛り込まれ充実している。
182	20	教育課程の見直し及び改善は教育を推進する上で最重要事項と考え、学生による授業評価アンケート結果や各教員の改善計画などを記述した「授業アンケート結果及び考察」を踏まえ、授業改善に積極的に取り組んでいる。
183	20	平成○○年度には「遊び力を育成する地域貢献型の保育者養成」が現代的教育ニーズ取組支援プロジェクト（現代GP）に採択された。これは学生の「遊び力」育成と保護者の子育て力の育成にとって意義がある。
184	20	1、2年次通年必修科目として「セミナーⅠ・Ⅱ」を開設し、担当者が2年間にわたって学生の学習・生活・就職などの支援を行っている。
185	20	FD活動が多岐にわたって展開され、全学的・組織的に授業や教育方法の改善に役立てている。
186	20	入学時、基礎学力不足の学生に対して教養科目の中に基礎科学科目群を用意し、習熟度クラス編成をするなど、学力の充実に努めている。また、「少人数教育」を掲げた二級自動車整備士養成施設の認定科目では、単位未修得者に対して、再履修クラスを設けて対応している。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅱ　教育の内容（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
187	20	教員が学生と個別に対応する「アドバイザー制」を採用することにより、日頃から身近な学習指導、生活指導及び就職指導をする機会を作り、適切な個別指導が可能な体制を構築している。
188	20	建学の精神・教育理念に基づく教育目標を実現するために、「キリスト教保育」、「キリスト教学」、「キリスト教人間学」の三つを必修科目として設置している。
189	20	保育科では幼稚園教諭二種免許及び保育士資格取得が100パーセントに近く、専攻科では大学評価・学位授与機構に申請した学生に対して全員学位が授与されるなど、教育課程が体系的に編成され、その中で教育内容及び教育方法の検討、改善がされている。
190	20	全教員と全学生が出席可能で自由に意見を交わすことができる「学生と教職員による授業について話し合う会」を設けている。授業について直接に意見を述べることができる機会は学生にとって貴重であり、学生の満足感を高めるためにも効果的であると考えられる。 また、「公開授業」は教職員、学生ともに自由に参加でき、特に教員にとって自らの授業を向上させるよい機会となる。
191	20	併設四年制大学と連携して300に及ぶ共通教育科目が開講されており、教養教育が充実している。また、特別学期が設置され、学生の多様なニーズにこたえようとしている。
192	20	年度当初に全教員に教育・研究計画書の提出を求める一方、年度末には実績報告書を提出させるなど、教員相互の目的意識向上に努めている。
193	20	当該短期大学では履修指導において、オリエンテーションでの学科や教務課からの指導・周知だけでなく、全学生の「履修状況一覧表」を基に教務委員を中心として教員が指導するなど、きめ細かい指導が行われている。
194	20	茶道文化への取り組みは注目するところである。伝統文化の継承、人間教育の一環、素養としての知識や技術の伝授を目的として、全学科の課外授業として開講し、これを単位化している。
195	20	国際理解教育として海外研修を実施している。緑地環境学科では国際感覚を備えた有為な人材の育成を目指して「国際環境デザイン演習」を選択科目として設置し、保育学科では国際感覚の育成を目的に、現地の幼稚園・福祉施設での研修を行い、それぞれの成果が当地の新聞に紹介された。このような研修の魅力や意義を理解する参加学生が多く今後も続けてほしい。
196	20	専門教育に関する独自の取り組みとして、学生が将来就きたい職種に関連するプロジェクトを履修する「プロジェクト学習」がある。企業と連携をとりながら最新技術を身につけることを目指し成果をあげている。
197	20	多様な学生に対する学習支援として、ゼミ担当教員と学習支援センターが連携し、きめ細かい指導が行われている。
198	20	教職員による「FD・SD推進委員会」や兼任教員との意思の疎通を図るための「講師懇談会」の開催など、教職員が一体となり授業改善に向け努力している。
199	20	幼児教育学科では「ピアヘルピング」、他の学科では「コミュニケーション論」などを開講し、今日の人間関係に必要な授業科目を整えている。人間関係でつまずく保育者が増えている今日の状況を考慮すると、学生のニーズに対応したものとなっている。
200	20	○○（*地域名*）に根ざした「地域活性化の担い手」を育成するための基礎教育プログラム「WE　LOVE○○（*地域名*）！プロジェクト」（平成○○年度、文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に選定）を開発・実践しており、学生の大半が県内に就職する当該短期大学には、郷土を愛し、豊かにすることのできる人材の育成が期待されている。
201	20	授業改善策を推進し、より迅速で効果的な学生へのフィードバックを目指した「学生による授業評価におけるフィードバック・システム」（文部科学省「平成19年度教育・学習方法改善支援」の補助金対象となっている取り組み）を導入している。
202	20	インターンシップを一般教養科目として、各学科の学生を対象に1年前期に開講している。授業で、研修先の希望調査・マッチング・事前指導・事後指導を行っている。60ケ所に及ぶ研修先の訪問は、就職指導部会の教員及び学生支援課が担当し、研修期間中の学生指導や企業からの情報収集にあたっている。評価は、研修の記録・レポート・プレゼンテーションで行っている。
203	21	食物栄養科において、調理ができる栄養士という社会からの要請にこたえ、ダブルスクール制度により当学園の設置する専門学校で調理師資格等も取得できるようにし、またこれに係る経費の減額、スクールバスの運行、夕食の提供等の便宜を図っている。
204	21	一般に開放している保育科の「子育て支援室」の取り組みは、社会のニーズを踏まえているとともに、学生にとって、保育士の資質能力形成に効果的な体験活動としてふさわしい場を備えている。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅱ　教育の内容（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
205	21	教育課程は、学生が幅広いニーズを持つ人間総合学科、教育・保育に特化したニーズを持つこども学科ともに、学生の多様なニーズにこたえている。
206	21	授業評価だけでなく、講演会、授業公開、事例集の作成及び卒業予定者との懇談等、多様で積極的な授業改善の努力がされている。
207	21	「公開授業ウィークとシェアリングタイム」と銘打ち、約1週間、すべての授業を対象に公開授業を実施し、さらに各学科･各専攻の指定科目の参観を義務付けている。各指定参観の授業公開者と参観者は、別の日時に分科会形式で実施するシェアリングタイムに集まり、参観者のフィードバックシートや授業公開者の授業のアイディアや指導案をもとに討議を行い、具体的な授業改善の手立てにつながる取り組みを行っている。
208	21	毎年、各科目について、学生による記名・無記名を選択できる授業評価が行われ、結果は授業担当者にフィードバックされている。さらに、学生の授業評価結果に対して教員が反省点を整理したり、意見を述べたりできる場が設けられている。
209	21	ファカルティ・ディベロップメント（FD）のための教員セミナーと、年2回発行のFDレターによって、教員の教育活動への意識向上を積極的に図ってきており、このようなFDに関する情報の共有と知識の蓄積を図る取り組みがされている。
210	21	地域の子育て支援事業への参加や、ボランティア活動を義務付けるなどして、授業と学外での活動をうまく取り入れて実践的な保育士養成に積極的に取り組んでいる。
211	21	45年の歴史を持つ「学園教育充実研究会」は、学園全体で授業改善を図る研修機会として定着しており、毎年各学科・専攻の教員が持ち回りで授業実践発表を行い、これを通じて当該短期大学を含む学園全体の教育の改善に寄与している。
212	21	全学生対象に国語表現「統一テスト」として「文字・成語テスト」、「小論文テスト」、「対話テスト」を実施し、規定回数の合格を単位認定の条件としている。また、書く能力、話す能力不足の学生には、「書写演習」、「会話演習」を課すことにより、基礎学力の向上を図っている。
213	21	人間福祉学科では、教員同士で授業参観を行い、授業改善に取り組んでいる。
214	21	学生による「授業改善アンケート」の結果を活用したファカルティ・ディベロップメント（FD）活動により、教員の授業に対する取り組みの変化がみられ、学生の授業評価もあがっている。
215	21	建学の精神・教育理念が反映された必修の3科目をはじめとして、48科目の教養科目が開設され、9人もの教養教育を担当する専任教員が配置されているなど、充実した教養教育が行われている。
216	21	平成18年度の学科改組により、学生のニーズを組み入れたコース設定などカリキュラム改革を果敢に断行し、学科の活性化を図っている。
217	21	卒業時の全国共通試験への対策と、介護福祉士国家試験（実技試験）に準じた介護技術に関する実技試験の実施と、卒業時能力の認定への取り組みは、平成24年度から実施される介護福祉国家試験を見据えたもので、学生の学習を補完するもので内容が充実している。
218	21	週のうち2日を短期大学で学び、3日を施設等の現場で実践する形の学びと実習が交互に行われる学習形態で、学内で学ぶ理論と実習における実践が互いにフィードバックされることにより、高い学習効果が期待される。
219	21	介護福祉実践研究レポートの作成指導が実質的に卒業論文と位置付けられており、2年間の学びが集大成されている。成果を発表することで学生同士、学生と教職員間との学びの関係が再認識されるなどの効果が期待できる。
220	21	学長のリーダーシップの証しともいえる「教員授業実施の心得10章」は、授業に取り組む教員の姿勢を正し、教員相互の授業参観が積極的に行われている。
221	21	従来の学科コース制に替えてユニット制を導入し、学科内容を明確にするとともに、学生の多様な進路選択の機会の提供につながっている。
222	21	コアユニットとしての基本科目である「基本演習」「TOEICイングリッシュＩA・ＩB・ＩC・ＩD」「コンピュータ演習Ⅰ･Ⅱ」については、習熟度別のクラス編成を行っている。特に「基本演習」では、定期的に理解度確認のための試験を行い、その結果によってクラス編成を決定している。
223	21	「教育実践検討会」における各教員の授業報告は、その内容から見て、授業公開に近く、各教員の授業技術の向上につながる企画である。
224	21	講義概要とともに学生に配布されている学生ハンドブックは、建学の精神、年間の学生生活の流れ、履修方法の説明、資格取得のための説明が分かりやすく明示されている。
225	21	基礎科目の充実として、1年次前期は専門領域を限定しないことにより学生は様々な表現領域を体験することができる。後期以降各自が選択する専門領域において個々の専門領域を見極め、より高度な知識・技術を集中的に習得することができるようになっている。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅱ　教育の内容（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
226	21	基礎学力が不足する学生に対しては、必要に応じ、授業終了後や土曜日にサポート授業を実施している。また進度の速い学生に対しては、技術力に応じ、難易度の高い作品を制作させることでスキルアップを図るよう指導している。
227	21	人間文化学科・幼児保育学科とも、様々な資格が取得できるよう教育課程の中で十分に配慮されている。
228	21	共通科目においては、建学の精神に基づいて、「ジェンダー論」、「生活経営学」、「生活者経済学」など、女性の「自主自律」を具体化するための科目が積極的に取り入れられている。
229	21	学生による授業評価は平成11年度より毎年実施されている。その結果、多くの項目において4.0（5点満点）ポイント以上の評価を得ている。学生たちが満足していることがうかがえる。
230	21	両科ともに実習先の関係者を招いて意見や情報を交換する実習懇談会を開催し、現場の意見を授業内容に反映させる努力をしている。
231	21	歯科衛生科では授業終了時に学生自身に専門知識や技術の達成度の自己評価を行わせ、技術の習熟度を高める体制がとられている。
232	21	2学科において、教養科目に共通する「フレッシュマンセミナー」と「キャリアプランニング」で、学生の生活、学習を方向付け、卒業後の就職に向けての意識付けと実際の就職試験、面接への対策が実施されている。
233	21	ライフデザイン総合学科においては、科目の選択自由度が非常に高い。また、YESプログラムの導入により、社会人基礎力の向上にも取り組んでいる。食物栄養学科では、教養科目で、講義だけでなく演習やスポーツ実習、海外研修などを選択することができ、また、設備の整った実験室において、レベルの高い実験も行われている。実践的な専門科目を展開しつつ、教養教育にも比重をかけたカリキュラム構成となっている。
234	21	ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動は、各委員を中心に、教職員が協働して行われ、現場にフィードバックするために組織的に連携しつつ、活発に活動を展開している。
235	21	シラバスについては、形式の統一、評価方法の提示、授業科目一覧表と行事予定表が講義要項に添付されていることで、学生が見やすく、取り組む姿勢が明確になっている。
236	21	生産システムステージという、工場等の現場経験を持つ社会人のみを対象としたリカレント教育を専門に行うステージを設置し、地域社会の要望に対応している。
237	21	共通科目として「地域創造学」を開講し、地域の行政、企業、福祉などの第一線で活躍する人材を外部講師として招き、学生の地域社会に対する認識と、その一員としての自覚を深めることを目的として実施している。
238	21	八ヶ岳山麓という自然環境に恵まれた立地条件を生かし、特色あるカリキュラムが展開されている。例えば、「自然観察」の科目では実際に自然の中で、観察や調査などの実習を行っている。また「体育実技」では乗馬やスケートを体験するなど、教育理念に掲げる「学生の個性と可能性を伸ばす」実学教育が行われている。
239	21	教員は担当する授業科目の授業概要、担当経験、教育研究業績等を記した「授業科目エントリーシート」を学長に提出し、これを学長が経験や適性について判断した上で科目の担当適任者であるか決定する仕組みを取り入れている。
240	21	授業の相互評価や理事会役員による授業参観を実施するなど、授業改善に対する取り組みとその進捗状況を点検している。
241	21	平成20年度より専任・兼任全教員参加の下、学生の学習や生活状況及び問題点の抽出、その改善策の検討などを行う研究会を実施している。
242	21	専門科目外の資格が取得でき、学生のニーズにこたえられる科目開設を行っており、学生が意欲的に学ぶ環境が整っている。また、両学科共通の総合演習では、少人数ゼミで専任教員全員が担当し、現場ニーズを見据えた特色ある取り組みを行っている。
243	21	履修科目の選択は、シラバス及び学生生活の手引として配布される「短大生活ナビ」で適切に判断できるよう工夫されており、また、チューター制による個人相談指導も行われ、入念な確認と指導がなされている。
244	21	キャリアデザイン学科の「各種メディアを活用した社会人基礎力の育成」プログラムは平成19年の現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に選定されている。ワークショップ型ゼミナールの実施、各種メディアを活用した情報の発信などを行い、学生への教育に効果をあげている。
245	21	「基礎演習」、「特殊演習」において、保育科の専任教員全員が教育に当たり、13名以下の学生を対象にゼミナール形式の少人数教育を実践して、建学の精神である「人物」教育と「技倆」の教育に力を入れている。
246	21	授業参観の実施や学科・専攻会議での授業改善検討会の開催など、学生の授業評価と結びついたFD活動の組織的な取り組みが行われている。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅱ　教育の内容（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
247	21	ネットワーク上の「Webシラバス」が有効に利用されており、2回の講義アンケート結果を反映した実効シラバスとなっている。
248	21	文部科学省の学生支援GPで、国際交流をテーマにした「地域の中で世界を感じる」が選定され、「学内における国際化」を積極的に推進している。
249	21	華道、茶道を教養科目に取り入れ、日本文化に根ざした専門職の人材養成を目指し、世界を視野にいれて羽ばたける人材養成を目的として、各科では教育内容に即応した実習が実施されている。
250	21	学生が自主的に学習できるような取り組みがされており、学生の多様なニーズにこたえるカリキュラムが用意されている。特に、国際教養学科・国際教育コースにおいて学生のニーズにこたえ、幼稚園教諭2種免許状の取得への配慮がなされている。
251	21	学生による授業評価アンケートの結果は、学科ごとの集計結果のグラフ及びアンケート結果に対する学科の見解、具体的な改善策をポスターにして公表している。
252	21	3学科とも、約40人クラス、約30人クラスを基本に、授業・実習を行っている。さらに、10人以下のゼミを設定し、ゼミ指導教員が担当している。少人数による「クラス制」と「ゼミ制」を教育の2本の柱として、個別指導にも対応し、教育の成果を高める努力をしている。
253	21	年2回の授業アンケート、年3回の教授会における授業の改善・充実を主題とした「フリートーキング」、教員による授業の自己点検、定期的な授業参観の組織的実施など、活発な授業改善への取り組みが行われている。
254	21	教員PDCAという教育改善のための独自のプログラムを開発している。それは授業改善のみならず、研究、社会活動、委員会等の活動、学生支援活動を含み、各項目において専任教員は計画、実践、点検、そして更なる改善のための行動を意欲的にとっている。
255	21	女性教育を基盤とした6分野からなる教養科目の設定と教授内容は、建学の精神に則して工夫されている。
256	21	共通教育科目以外で3学科の専門教育科目の中から他学科の学生の教養教育に役立つ科目を選出し、これを「開放科目」として提供しており、縦割りの専門知識に修学の幅を広げる試みを行っている。当該短期大学の「ゆるやかなコース制」という考え方が底流にあり科目の選択性が向上している。
257	21	5～6人程度の少人数クラス編成や習熟度別クラス編成による授業運営が行われ、学生の学習意欲喚起が図られており、徹底した少人数教育が図られている。
258	21	建学の精神・教育理念を教育課程に浸透させるため、「キリスト教と倫理」、「キリスト教と文化」、「知ることと信じること」、「チャペルアワー」を開設して、ミッションスクールとしてカトリック精神に基づく人生観及び宗教的情操の高揚を図っている。
259	21	高等教育機関コンソーシアム和歌山による単位互換制度の実施、「観光を主軸とした知の拠点形成のための戦略的大学連携」事業への参画、インターンシップの単位化、茶道・華道・着付け・マナー等の教育への取り組み、地域と連携した教育への取り組みなど、積極的に実施されている。
260	21	自由履修制度（CMP－チュウタンマイドリームプログラム）を発足させ、他学科の開講科目を履修できる制度を設けることによって、学生のニーズに対応できているとともに、各学科において多くの資格が取得できるよう教育課程が編成されている。
261	21	英語コミュニケーション学科においては国際理解教育の一環で海外研修制度を設け単位認定を行っている。この制度を利用することで2年次後期からの継続的な留学が可能となっている。
262	21	私立大学等経常費補助金特別補助対象事業（教育・学習方法等改善支援）に採択されている七つの事業は教育と郷土の歴史と文化に結びついた地域貢献につながるユニークな試みである。
263	21	公開授業を行い、教員間で相互評価を行っている。学生アンケートから改善が必要と感じられる科目については、授業内容改善につながる個別指導を行っている。
264	21	教育内容を充実するために幅広い教養科目を開設している。専門学校との競争において、実学志向を深める短期大学の動きの中で、多様な教養科目を開設し、その持続を努力することは教養に対する見識の深さの表れである。
265	21	学生の多様なニーズにこたえ、多数の専門科目に加え、複数の外国語系を含む教養科目の受講が可能である。設置する学科の関係で講義科目が多くなっているが、選択科目で演習と講義のバランスを保っている。また、数多くの資格取得への配慮がなされている。
266	21	生活創造学科の基礎学力向上対策として、社説・コラム・エッセイ等の「書き写し」を実施するとともに添削指導している。また地元百貨店との提携により「ファッションビジネス論演習」をインターンシップとして開講している。
267	21	全学的及び学科ごとの組織的なFD活動による授業改善の取り組みをはじめ、非常勤講師を含む関係教員の会合による教科ごとの調整や、学生の意見も協議するFDフォーラムの開催などにより、きめ細かな授業改善が進められており、3学科とも継続的に教育課程の見直しに取り組んでいる。
268	21	免許・資格取得講座(4講座)、公務員・就職・四年制大学編入学講座(5講座)など就職等のための対策が充実している。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅱ　教育の内容（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
269	22	現在の学生の状況を踏まえ、「日本語コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として開講している。
270	22	教育課程の免許や資格等の取得に向けて、積極的に授業体制への配慮を行い、学生のニーズにこたえている。習熟度別授業も導入し、学生に対しての細やかな指導を行っている。
271	22	「授業計画（シラバス）」の評価方法では、知識力、応用力、展開力の区分ごとに評点のウェイトを明記している。
272	22	授業評価アンケートに利用されているIT化教育支援システムは、併設大学と共同開発したシステムであり、携帯電話やコンピュータを利用した授業評価アンケートを実施している。各教員は同システムにて担当科目のアンケート結果を閲覧することができ、授業改善に生かせるようにしている。また、学生から事務局が欠席連絡を受けた場合には、全教員に電子メールを送信する欠席者のチェックシステムは、学習支援としても生活支援としても機能している。
273	22	建学の精神の生活信条につながる「現代作法学」が開講され、女性の人格の育成に力を入れている。
274	22	教養教育の取り組みとして、「看護のそこ力」をつける教育として6科目を設けている。特に2年次に実施される「自由活動旬間」は、建学の精神「人間愛と奉仕の心」に基づくものであり、看護を行う基本の姿勢を学ぶだけでなく、学生の自主的なグループ学習活動を教員が支える仕組みは、学習成果をあげ教育目的の達成につながっている。
275	22	学生を対象にした教育重点目標と、そこから導き出される教員側の教育活動重点事項の取り組みや、授業改善と事務・管理の充実を目的とした教職員研修会などのFD活動は、優れた試みである。
276	22	当該短期大学では、「キリスト教人間学」を設けると共に、授業内容と関連させた授業外の活動として、「○○祭（*大学行事*）」での子ども対象の催しもの参加、「音楽発表会」参加、週一回教員と共に行う清掃活動などで、人間性の教育を行っている。
277	22	「FD・コンソーシアム委員会」を学内に設置し、課題の分析、教員相互の授業公開等で研鑽に取り組んでいる。山形地区のFD組織「FDネットワークつばさ」と「コンソーシアムやまがた」に加盟し、他校との情報交換に取り組むなど積極的な姿勢がみられる。
278	22	全教員による全学的なFD活動が実施され、充実した内容となっている。
279	22	全学生による「授業評価アンケート」と各クラス学生10名による「聴き取り調査」を実施すると共に、公開の研究授業をその都度行い、教育向上に役立てている。
280	22	「作新学院女子短期大学部FD勉強会」を毎月定期的に開催し、授業運営に関する教員間の問題の共有や工夫ある取り組みの紹介、学生による授業評価の結果の活用方法の検討等、授業改善に意欲的に取り組んでいる。
281	22	入学直後に行われる1泊2日の校外研修にシラバスを持参させ、履修に関するガイダンスを行うなど、多くの時間を割いて丁寧に説明・助言することによって、誤解による登録ミスや履修放棄を未然に防ぐ工夫を行っている。
282	22	生活科学科は、資格取得のための指導が徹底していて無欠席の学生が大部分となっている。
283	22	キャリアデザイン学科における教育課程では、豊富な授業が用意され、学生が自らキャリアをデザインできるような選択肢をたくさん置くなど、工夫を凝らしている。
284	22	専門教育を発展させ、学生自身が自主的に研究する場としてゼミ形式の「研究部」を設定し、授業外活動の活性化を図っている。
285	22	すべての専門実技においてアンサンブル授業を課しており、これを「バランスのとれた人間教育」の一環として位置付けている。
286	22	教育力向上を期待して、専任教員間での情報交換会や兼任教員とのカリキュラムに関する勉強会を実施している。
287	22	一般教育科目に「マナーとホスピタリティ」という特色ある基幹科目を設置し、学生の社会人基礎力向上に努めている。
288	22	FD委員会が主体となって、授業公開週間を設定し学内の教員に公開するなど、積極的な授業改善に取り組んでいる。
289	22	学生による授業評価と教員の自己点検・評価を、開学の平成11年度以降継続して実施し、平成20年度にFD委員会が整備され、平成21年度からは、授業アンケートを授業の中間時点にも実施し、その結果を後半の授業に生かすなど授業改善を図っている。
290	22	教育目的、教育目標を学生に周知する機会として、新入生対象に2泊3日の研修を実施している。学生は、研修でプログラムに参加し、内容をグループでまとめて発表することで、2年間で身につける能力について体験的に学ぶことができる。
291	22	学生の履修状況について教員間の情報共有がよく行われている。特に兼任講師に対して年度開始前に全体説明会を行っている。これにより、出席管理を中心に、専任教員と常に連絡がとれるよう体制を整えている。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅱ　教育の内容（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
292	22	学生の学習効果に鑑みて1時間（60分）授業を1授業時間として授業時間の確保に努めている。
293	22	講義科目に至るまで小規模で適正なクラス編成の実践が徹底されている。
294	22	授業評価結果を受けて授業改善に関する具体的方策が　専任教員及び兼任教員の全教員から提出され、冊子として公開されている。また、全員参加による懇談会を開催して、共通理解を図っている。
295	22	初年度教育として、全学生を対象に基礎ゼミナールを設け、基礎学力向上に積極的に取り組んでいる。基礎教育支援センター、キャリア学習センターを中心に、全学科教員が指導にあたり教育目的・教育目標の達成に向けて努力している。
296	22	平成20年度より、専任教員全員が授業公開に参加し、授業改善に取り組んでいる。
297	22	外部講師による課外講座では高額な受講料が必要となるが、受講料の8割を短期大学が負担し学生の負担軽減策を講じていることは、資格取得を援助しようという当該短期大学の姿勢をよく表している。
298	22	基礎教育科目の中に外国の言語と文化として、英語・ドイツ語・イタリア語の3か国語を開設し、語学の習得に加えて異文化理解に力を注いでいることは、音楽短期大学の特性に合ったものといえる。
299	22	「ソングライティングの世界」など、時代のニーズに即応した科目を開設している。
300	22	オーストリアのウィーンに海外研修施設を設置している。研修を希望する学生が毎年参加し、ウィーン国立音楽大学の教授陣やウィーンフィルハーモニーの演奏者から、直接、講義や実技指導を受けている。
301	22	体育科はもちろんのこと幼児教育保育科においても「幼児体育に秀でた」保育者の育成を目指し、建学の精神が貫かれている。
302	22	教育課程の科目の種別が多彩で、授業科目も豊富である。特に、「コラボレーション科目」としてコース・学年を越え、併設大学の学生や産業界、地域社会とコラボレートする企画は、学生にとって十分に興味があるもので、人間教育としても期待できる。
303	22	両学科それぞれの特色を打ち出した成果発表の機会を設け、教育内容の充実を図ろうと努力している。例えば、文部科学省による「質の高い大学教育推進プログラム」（教育GP）、模擬店舗を使った体験学習、ファッションショー、創作実習展、コンペティションへの参加など、授業時間外の取り組みも積極的に行っている。
304	22	食物栄養学科においては、栄養士資格以外にも他の資格をより多く取得させるため、必修科目を「食物基礎演習」1科目としている。学生の要望に応じた教育課程を構築している。さらに、栄養士の資格向上を図るために、マナー教育を実践している。
305	22	生活デザイン学科においては、地元商店街や企業を初め、地域とかかわる形での見学・研修、作品発表、実務研修をとおして、デザインの実践と提案がされており、単に授業のみでなく、教育内容の向上が図られている。
306	22	教員相互による授業参観を行い、「教員相互による授業参観授業者アンケート」によって、授業を公開した教員、参観した教員が共に学ぶ機会が設けられている。
307	22	看護実習委員会に各実習病院の管理者等を参加させ、施設間の指導内容の統一を図るとともに学内演習に病院の看護師をティーチング・アシスタント（TA）として参加させ、指導体制の強化を図っている。
308	22	教員と学生の両者が行う授業評価、教員相互の授業参観、理事・評議員による授業参観の実施など、授業改善に組織的に取り組んでいる。
309	22	地域総合科学科として展開される考古学、歴史学、音楽、原子力発電に係る安全学等の講座は、地域としての○○市及び○○地域に関する貴重な科目として開設されている。
310	22	学生の日本語能力の向上を目指し、教員が独自の基準を設定して、習熟度別クラスを設置している。
311	22	シラバスが充実しており、特に各授業に対する達成目標が明記されている。
312	22	現代コミュニケーション学科において、「専門教育科目」を「基本科目」、「基幹科目」に区分し、四つのステージ科目に、さらにそれらを九つのユニット科目に細分し、専門知識の養成を図るとともに、学生の科目選択の自由を保障している。
313	22	現代コミュニケーション学科の習熟度別授業、食物学科の高等学校理科科目に対する入学前指導及び理解度試験の実施は、科目の学習効果を高めるとともに学習意欲を喚起する取り組みである。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅱ　教育の内容（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
314	22	基礎分野科目に建学の精神、教育の理念を取り込んだ科目「人と宗教」を開設し、学生に当該短期大学の精神的基盤を明確にする配慮がされている。
315	22	入学早期に歯科衛生専門科目を学習させ、歯科衛生士としての職業意識の早期育成とプロ意識の確立に努めている。
316	22	面接授業において、すべての科目に「イントロ・プログラム」（多様なメディアを利用した事前授業）の受講を課し、単位制度の実質化に向けた取り組みを行っている。
317	22	面接授業や科目終末試験は学生が受講・受験しやすいように全国各地で実施しており、働きながら遠隔地で学ぶ学生に配慮した支援である。
318	22	教育課程が基礎、発展・展開、まとめと分かりやすい三つの発展的な学びの段階で構成されており、各段階の科目群は学生に分かりやすくグループ化されている。その開設科目も多種多様で、学生の学びの多様なニーズに十分こたえるものとなっている。
319	22	生活文化学科では、日本文化演習、茶道、書道、点字・手話、CG演習、インターネットビジネス体験、健康フィットネス、エアロビック・ダンス・エクササイズ・インストラクター（ADI）、オペレッタ等の内容が開設され、学生にとって学ぶ楽しさをもたらすとともに、伝統的教養と近代的教養の両面を学習するものとして特徴的に受け入れられている。
320	22	専任教員は指定された期間内に一つ以上の授業を公開している。他の教員は当該授業を自由に参観し見学報告書を作成するが、このような取り組みが授業改善に大きな効果をもたらしている。
321	22	全学科・コースのシラバスに「環境キーワード実施予定」、「環境ポイント（貢献・負荷）」を導入し、全教科あげて学生の環境問題への意識向上に取り組んでいる。
322	22	インターンシップが生活文化学科3コースに学科・コース必修として、1コースは選択科目で設定されており、ほとんどの学生が受講している。実施においては受け入れ企業の開拓、アフターケア等に教員の多大な支援・指導があり、その後の就職活動にも良い影響を及ぼしている。
323	22	授業方法の改善のために公開授業を実施しており、参観した教員がコメントを作成し、教員間の交流を促進する仕組みになっている。
324	22	選択科目は受講者が1人であっても開講しており、学生の学習意欲の向上に寄与している。
325	22	1年次通年必修科目である「フレッシュマンゼミ」においては、全専任教員があらかじめ内容を協議し、共通の指導書を作成して指導に当たっている。この取り組みは、初年次教育として優れている。
326	22	全コースにおいて、履修状況に応じた華道免状、茶道許状の取得が可能であることは、特色ある魅力である。選択科目としても、いけばな、茶の湯、着物など、京都に関する共通科目が開講され、当該短期大学にふさわしい特色を示している。
327	22	早い時期からFD活動の取り組みが行われ、授業内容の見直しや改善の努力をしている。
328	22	シラバスはオンラインでの閲覧が可能であり、加えてCD-ROMでも配布され、学生の理解に役立つよう努めている。
329	22	「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度に参加し、平成17年度以降、当該短期大学を特徴付ける仏教と保育関連の授業科目を毎年2科目開講している。
330	22	国際看護学を必修科目に置き、外国の医療事情を実際に視察する機会を与えていることは、国際的視野を広げ、今後のキャリア形成を促すことになる。
331	22	外国語文化学科の英語科目や保育科の音楽（器楽）では、習熟度別授業を行っている。
332	22	全学生の共通必修科目として「ガイダンス」というコア科目を設置しており、その科目の中で建学の精神を学生に周知している。
333	22	建学の精神に基づく「人間教育の基礎」分野として位置付けている「特別演習ⅠA・B」、「特別演習ⅡA・B」、「人権教育の研究」を全学生対象の必修科目としている。
334	22	教養教育科目の「教養ゼミ」や「スキルアップ」科目群は基礎学力の補填と短期大学教育の質の保証として先進的な試みである。
335	22	学生の授業評価結果に対する教員の改善策等のコメントが学内のウェブサイト上に公開され学生の閲覧に供することで、教員・学生双方の授業改善への意識が喚起されている。
336	22	「西宮市大学交流センター・共通単位講座」と「放送大学」での単位互換制度を有している。また、児童教育学科では「クリスタル・コンサート」（音楽分野）、「卒展」（美術分野）、「オペレッタ合同発表会」（体育分野）等、分野ごとに学習成果を発表する機会を設けるなど、長年各学科、専攻・コースそれぞれに学習成果を発表するための事業を意欲的に展開している。
337	22	2年間の学びの集大成として、全学生による小論文集を発行している。専門知識や実習体験を踏まえた学生自身の学びを振り返らせ、その中から、優秀学生を表彰している。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅱ　教育の内容（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
338	22	教育モットーを「清楚の美、健康の輝き」と設定し、ソーシャルスキル演習、キャリアデザイン、子ども学ゼミを中心とした有機的な科目の組み立てに努め、授業評価の結果を活用し、成果を上げている。
339	22	併設大学との単位互換制度によって、多様な授業の履修が可能となっている。
340	22	インターンシップの単位化や子育て支援実践演習の科目を開設して、学生の職業観の確立や就業力育成への取り組みがされている。
341	22	教養教育に重点を置いて、学生の学習する能力を高めようとしている取り組みや保育学科における「子どものいるキャンパス」や「ピアサポート」など、授業外の環境を整備することで目的意識の低い学生への動機付けを図っている。
342	22	専門教育科目「工芸」では、萩焼という伝統工芸を体験する機会があり、地域に根ざした学習ができるよう配慮されている。
343	22	平成19年度に「○○大学教育開発機構」を設立し、研修会、研究授業などを実施し、授業改善に向けたファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を全学的に行っている。
344	22	健康スポーツ学科では、希望者に対して併設大学の通信教育課程を活用した小学校教諭二種免許状の取得を促し、主体的なキャリア形成を導いている。
345	22	専門教育科目は、コース制とフィールド選択制により学生のライフデザイン、キャリアデザインに沿って選択できるようにしている。
346	22	共通基礎科目に総合ゼミナールを設けて必修とし、人間教育を行っている。
347	22	入学時プレースメントテストを導入して習熟度別クラス編成をするなど、学生の実態に応じた授業形態をとっている。
348	22	夏期休業及び春期休業期間を利用して短期海外研修を実施している。この研修の成果は「異文化交流Ⅰ」、「異文化交流Ⅱ」として単位認定を行っている。
349	22	教養教育科目として「ボランティア活動」を設置している。学生のボランティア活動の成果に対して、報告書と、その内容の聞き取りによって単位認定を行っている。
350	22	教育内容と方法については、実習の打ち合わせや保育内容検討会において意見交換をしている。特に幼児教育研究会にみられる各学生の得意分野（一芸）を伸ばすシステムの導入は、特徴的な取り組みである。
351	22	「スチューデント・ファースト」というスローガンを掲げて、学生中心の「気づき」を大切にするプレゼンテーション型の授業を増加させ、教員も積極的に実務教育協会主催の研修会などに参加し、その効果を高める努力をしている。
352	22	シラバスは多くの項目から成り、充実した内容を有している。特に、「前年度の授業詳細」の項目では、前年度のファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の報告がされており、「前年度の授業の自己評価」の欄では教員の感想・意見等が記載され、FD活動の学生へのフィードバックが毎年行われている。
353	22	平成21年度は、毎学期すべての専任教員が授業評価アンケートを実施し、それぞれ1回ずつ公開授業を実施している。これらの公開授業に対して、多数の教員が参観者として授業見学を行っている。
354	22	歯科技工学科では大学附属病院での診療見学を必修とし、チーム歯科医療に参加できる歯科技工士養成のための実践的な教育を積極的に行っていること、また歯科衛生学科では高齢社会に対応した科目構成を行い、介護・福祉関係の資格を取得させ、地域社会で活躍できる人材養成を視野にいれた教育内容となっている。
355	22	学生が意欲を持って履修できるように、マンツーマンでの生活指導や知識・技術等の学習が将来の職業にいかにつながっていくかについて授業の中で説明し、学業の意味を考えさせている。
356	22	シラバスによる文字情報伝達だけではなく、各授業の初回には担当者からその講義内容と成績評価法について説明を行う対面コミュニケーションを徹底している。また、学生が担当教員に質問や相談等がしやすいようにシラバスにオフィス・アワーを記載している。
357	22	学生による授業評価、教員相互による授業観察及びワークショップ開催等が熱心に行われている。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅶ　社会的活動（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
1	17	社会福祉団体との連携による訪問介護員養成講座の開催、ライオンズクラブ活動への協力、外国人留学生に対する日本料理の紹介と調理指導を行っている。
2	17	学生の社会活動として、例年、春秋2回の献血活動への協力（毎回平均60数名）、○○市の実施する各種イベントへの協力、教育委員会の要請による就学時検診におけるボランティア活動のほか、教員引率による課外活動については単位認定を行っている。
3	17	温水プール、フィットネスセンターの設置等地域住民の利用も考えた取り組みが行われている。
4	17	ボランティア活動に全学的に取り組み、全学生へのボランティア手帳の配布、ボランティア標語の募集と表彰、ボランティアデイ（年4回）の開催等、特色のある取り組みを行っている。
5	17	大学祭である「○○祭」に多数の地域住民の参加があり、地域の活性化に寄与している。
6	17	各学科の特質を活かした公開講座の開催、社会人の受入、研修生制度等による卒業後教育が行われ、また学生有志による学習内容を活かした地域活動へのボランティア参加も、教員からの指導・助言を受け活発に行われている。
7	17	国際交流の一環として、看護学科ではフランスの病院への研修旅行が行われ、また複数の教員が、内外の国際機関からの依頼により、韓国での招待講演やパラリンピック主治医、JICA専門委員、ベトナム・ラオス保健分野開拓調査団団長等として活躍している。この他、研究を中心とした国際会議への出席も行われており、国際交流、研究活動の国際化がなされている。
8	17	大学オープンアカデミー等を通じて、教育と研究の成果を地域社会に還元する一方、新たな教育と研究の課題を見出し、新たな教育成果を生みだしている。
9	17	地域のこどもたちを対象として実施されている「こども造形教室」は過去12年間にわたって優れた実績を挙げており、特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）にも採択されている。
10	17	教員の海外留学、海外出張、国際会議出席が盛んに行われている点は、短期大学としてきわめて優れたレベルにあると認められる。
11	17	大学と短期大学部全学挙げて行われる歴史と伝統の「○○祭」（延べ参加人数約8万人）は単なるイベントではなく教育、研究の成果を学内外にオープンにする場でもある。準備への活動の度合いを単位化している点は、参加への積極的な意欲にもつながっている。
12	17	全学的に取り組んでいる「食料」、「環境」、「健康」、「資源エネルギー」を含めたプログラムで積極的に地域に働きかけている。
13	17	併設四年制大学の姉妹校（18カ国）を中心に短期大学部学生の海外派遣がなされている。
14	17	高大連携をはじめ、湘北エクステンションセンターを設立し、産学協同研究、教材開発、教育研修を展開している。
15	17	20周年記念館がアートギャラリーとなって、地域社会の教育文化の拠点として機能している。
16	17	デザイン美術科の特色を生かし、地域社会からデザイン関係の委託業務を数多く受託している。また、市街地中心部の空洞化に対して、街おこしの一環として学生が積極的にイベントに参加している。
17	17	キャンパスが小さな公園のようになっていて、市民が湧き水を利用できるようになっている。
18	17	平成13年に「生涯学習センター」を設置、担当教員と専任職員を配置し、オープンカレッジ講座、学内授業の公開講座、セミナーの開催を積極的に行っている。
19	17	学生のボランティア系サークルが多くあり、ボランティア活動が活発に行われている。
20	17	複数の海外教育機関と相互派遣型交流を行っている。
21	17	地域社会との共存を目標に掲げ、継続性をもった活動が行われている。また、チャンドラゴーナ・キリスト教病院の子ども病棟支援活動は、教育課程と支援活動が一体となっている。
22	17	地域の商店主らが相談に訪れた学園祭における「地域住民や中小企業のための経営税務相談コーナー」は、専門性を活かした試みである。
23	17	地域と共生する姿勢を活動の方針とし、教育内容と統合した形式で教員と学生が一体となり、継続的に実施している。多胎児子育て支援や保育所での子育て支援、不登校児童生徒支援、口腔保健指導を通じての保健支援、高齢者施設における介護支援等学科・コースの教育内容に関連する多くの支援プログラムを展開している。
24	17	教員がベンチャーネットワークを主催して自治体やNPO等と連携して地域活性化の取り組みを行っている。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅶ　社会的活動（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
25	17	商工会議所との講演会、大学コンソーシアム山陰、○○県環境学術研究振興事業、産官学連携フェスティバル等の他、絆研究所、北東アジア文化総合研究所の設置等、幅広く豊かな活動が行われている。
26	17	学生の保育所等の施設へのボランティア活動、さらに地域の園児・児童を対象とした社会的活動が積極的に推進されている点は、「人間関係力養成」の学習成果の確認としても評価でき、学習成果がそのまま社会的活動として生かされている。
27	17	「コミュニティー・カレッジ」として、「幼児教育学演習」受講者による「こども劇場」を学外の県民ホールで毎年開催し、延べ1700人の幼児が参加している。
28	17	教員の地域社会活動が意欲的に実施されている。
29	17	学生はボランティア活動に積極的に参加している。この体験は企画力、実践力を向上させ、学生の成長に大きな影響を与えている。
30	17	自治体や各種機関の要請に応じて、多数の教員が専門的知識･技術を発揮しながら地域社会に貢献している。
31	17	高大連携としての出前講義を福岡県内だけではなく、近県6県を対象に展開しており、実績も上げている。
32	17	平成15年の特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）の採択を受け、過去何年にもわたる地域高齢者と学生のコラボレーションが効果を上げ、教員や学生にも好影響をもたらしている。
33	17	「鶴鳴アカデミア」をはじめ、各種公開講座、開放講座、講師派遣等の積極的活動により、生涯学習を推進している。
34	17	県立養護学校の｢総合的な学習の時間｣と幼児教育学科の卒業研究ゼミの活動をうまく一致させて、ボランティア活動を教育課程の中に取り込んでいる。
35	17	茶道文化活動、交通ボランティア活動等、多彩な地域連携活動を行っている。
36	18	子育て支援活動の展開や在宅心身障害児（者）へのボランティア活動、授業の一環としての学生の海外研修の実施は特記される取組みである。
37	18	ボランティア活動などを通じて、地域社会に貢献しており、地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体などと効果的な交流活動を行っている。
38	18	平成4年設置された生涯学習センターは、地域の生涯学習拠点として地域社会に貢献している。本事業は平成15年度文部科学省の特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）（題名「生涯学習センター設置と公開講座の継続実施」）に採択された。
39	18	全学生1年次必修科目「ボランティアワーク」にも象徴されるように、建学の精神に基づいた全学的ボランティア活動により地域社会に貢献している。
40	18	○○という施設を使用できることは学生、教員の国際交流を推進する上で評価できる。
41	18	学園に付属する総合研究所との提携および学生の社会的活動に対しては「GSP（ゴールデン・スプーン・プライズ）制度」に基づく活動成果の表彰を通じて奨励と定着をはかっている。
42	18	時代の要請に応じたテーマを選択し、20年以上公開講座を連続して実施している。
43	18	市役所や地元諸組織と強い協力関係を築いている。
44	18	学生のボランティア活動は活発で、教員も積極的に関わっている。
45	18	ボランティア活動は建学の精神や学科構成の関係から非常に活発に行われボランティア活動の単位認定も行っている。その中心であるボランティア・センターは専従スタッフと学生が中心となり、ボランティア・コーディネート事業、講習・講演・講座開講、子育て支援相談室の設置、見学研修事業などを実施し、延べ1,229人（平成17年度）の学生が関わった。このような活発な活動の結果は、全国の大学、短期大学から視察されるほどである。
46	18	学生の社会的活動への参加を積極的に評価し達成感を得させる方法として、ボランティア活動に単位を認定する制度を設けていることは有意義なことであり、学生の社会的活動に対する意識を継続的に高めることに繋がるとともに、今後の参加人数の増加へと発展する可能性があると判断でき、高く評価することができる。
47	18	3Hボランティアセンターが、全学の組織として、地域との連携協力を果たすべく活動を開始している。地域住民にとって、短期大学の窓口が一本化されると活用しやすく、今後の多方面にわたる活躍が期待できる。教職員の支援の下、学生が地域の祭りに出展することが4年間継続されている。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅶ　社会的活動（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
48	18	教員と学生の調布市、仙川地区への貢献度は高い。音楽専攻で、恒常的に20名を超える社会人を受け入れている。社会人の受け入れが、正規の学生の意欲を高めるという良い効果を生んでいる。社会的活動は、芸術系短期大学の特色をいかし、音楽専攻が保育園・幼稚園・小学校などで「読み聞かせコンサート」、病院・施設で慰問演奏を実施している。キャンパス内でも、コンサートや演奏会を実施し、地域へ貢献している。地域の子供から高齢者に至るまで、地域の人々に対して、様々な貢献をしている。海外機関との双方向の国際交流が活発である。「日本音楽専修」があることで、双方向の交流が可能となっている。ゲスト・スピーカーの招聘が盛んに行なわれている。
49	18	海外に複数の提携大学を擁している。
50	18	デンマークの関連校との交流事業が実施されている。
51	18	各学科に研究センターを設置し、積極的に地域に働きかけ、かつ実践している。
52	18	教員による多彩な公開講座や、学生による学科の特性をいかした多様なボランティア活動がなされている。
53	18	海外研修の一環としての在外研究員制度が設置されて、活発に利用されている。
54	18	地域社会向けの公開講座、生涯教育講座などを主催するとともに地域の行政、商工業、文化団体などとの交流活動を活発に行っている。
55	18	○○中心市街地活性化事業「サテライトオフィス」へ運営協力をし、社会的活動を積極的に行っている。
56	18	地域協働研究所を設置し、短期大学と地域との双方向連携活動を行っている。
57	18	大学懇話会、「岡崎市民カレッジ」サテライト・オフィス講座、「21世紀交流サロン・葵丘」など、さまざまな地域社会との交流活動を活発に行っている。
58	18	国際ボランティア・プロジェクト参加者に渡航費を支給している。
59	18	公開講座が文部科学省エル・ネット「オープンカレッジ」に2年連続採択されている。
60	18	「環境管理活動」（ISO14001認証取得を含む諸活動）に取組んでおり、環境管理推進委員会の委員に学生も参加し、エコ活動に熱心である。
61	18	県教育委員会後援の「高校生英語オーラル・インタープリテーション・コンテスト」、建学の精神に基づいた学生の諸分野におけるボランティア活動を行っている。
62	18	○○院の設立による宗門学校の伝統と信頼にこたえ、地元および諸公的団体との連携による社会的活動に積極的である。
63	18	京都大学大学院などの留学生を含む、20カ国の人々と英語でそれぞれの母国の文化について語り合い、交流している。
64	18	地域の特性をいかした様々な形態の公開講座を開催している。
65	18	地域社会（商店街）の活性化など学生の参加が活発である。
66	18	エクステンションセンターの設立や、地域社会（宇治市）と緊密に連携した社会活動は、地域の研究・教育活動の拠点としての責任感と「仏教に基づく人間教育」を掲げる建学の精神とに支えられており、今後の発展が期待される。
67	18	看護学科では、兵庫県看護協会「まちの保健室」の活動拠点として活動していることは評価できる。
68	18	学生の社会活動に対する支援、評価が積極的で、長年にわたるボランティアの実績がある。
69	18	地域に根ざした積極的な社会的活動が、演奏会、公開講座、市民参加のミュージカルなど多方面において全学的に展開され、優れた実績をあげている。
70	18	広島市との官学共同活動や地域との連携として復元バス事業に関わるなど、地域の活性化に貢献する姿勢がみられる。
71	18	演奏活動、公演活動、公開講座などを通して市民との幅広い交流が展開されている。
72	18	障害者施設、老人施設へのボランティアを行っている
73	18	地域に根ざし、地域とともに発展する短期大学という運営理念が、実際の活動成果を通じて充分に読み取れる。
74	18	オープンカレッジは、内容、開催回数ともに充実しており、地域社会に対する貢献度は高い。
75	18	図書館における「凌霄文庫」の存在は、地域文化に貢献している。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅶ　社会的活動（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
76	18	社会人向けに造形芸術センターで21に及ぶ公開講座を開講している。
77	18	在学する留学生に対しては、九州産業大学の国際交流センターと連携を図り、日本の伝統文化、風土に触れる機会を多く得られるように努力している。
78	18	保育科授業の成果として発表しているオペレッタのコンサートは、市民に広く定着し、好評を得ている。
79	18	社会的な活動として「エクステンションセンター」の設置に加えて各学科、専攻の積極的なボランティア活動の展開が認められる。
80	18	「国際協力と地域貢献」の理念のもと、周辺地区の防犯パトロール、ごみ拾いという身近の社会活動をはじめ県主催の研修会などにも協力し、積極的に地域貢献を行っている。国際交流においても多くの学生が交流協定校と相互訪問を行うなど実績をあげている。また、高大連携など、ほかの教育機関との連携面での活発な社会貢献活動がなされている。
81	19	AEL事業（公開講座）を中心とする社会的活動は、建学の精神である「地域に開かれた大学」としての使命を充分に果たすものである。
82	19	オリジナリティーあふれる、様々な社会的活動への取組みが極めて積極的に推進されている。「OOJCオープンカレッジ」や「サテライト教室-あおぞら-」の他にも「生涯学習講座」で多くの講座を開催し、しかも多数の受講者を集め好評を得ている。
83	19	「社会的活動は学生にとって貴重な学びの場」という理念の下、幅広い分野の数多くのボランティア活動・地域活動・地域貢献を、積極的、日常的に支援しており、ほとんどの学生が自主的に参加している。
84	19	地域に開かれた短期大学として、行政や各種団体などとの連携、交流に努め、サマーフェスタやオープンカレッジなどを通して、地域との共生や高大連携への努力がなされている。
85	19	地域文化の研究・継承としては、アイヌ文化事業の推進、地域振興への協力を行っている。特にアイヌ文化事業であるアイヌ文化の研究は、文部科学省の補助金を受けて8年間にわたりその成果を出版するものであり、全学科の正規科目である「アイヌ語」および「アイヌ伝承」の教育とも連動するものである。そのためにアイヌ研究の研究員を2名雇用し、オープンカレッジなどでの講師を担当している。アイヌ語研究の第一人者である金田一京助博士の記念文庫には貴重な記録や文献が所蔵されており、アイヌ語文化研究とその知的資産の社会への還元は、独自のものである。
86	19	エクステンションセンターを中心に、多数の公開講座、地方自治体などと連携して行う「提携講座」などが開催され、地域社会の文化・教育・生活等の活性化への取組みや同センターで発行している月刊「酪農ジャーナル」は高い貢献度が認められる。
87	19	ボランティアデーを設定し、学生全員がボランティア活動に参加している。
88	19	地域交流センター・民話交流センターを開設し、地域社会との活発な交流活動を展開している。
89	19	学生によるボランティア活動が盛んで、短期大学としても学生の活動を熱心に支援・促進しており、地域社会に幅広く貢献している。
90	19	思春期の高校生を対象とした学生によるピアカウンセリング活動を行っている。
91	19	五つの担当組織をもつ「地域交流委員会」を設置し、積極的に地域貢献や外部への情報発信に努めている。
92	19	独自の社会貢献への取組みとして、クラブによる「出前公演」があり、主に和太鼓やダンス部などが地域の福祉施設や自治体で活動している。
93	19	町の後援を得て、毎年「世界レンゲ祭」に参加するほか、クリスマス・チャリティコンサートなど、地域の行事に参加し、学生ボランティアも文化的活動の一端を担っている。
94	19	留学生を受け入れたり、学生を海外系列校への短期留学や海外実習に派遣したりすることを教育の一環として取組んでいる。
95	19	「嘉悦杯家庭婦人バレーボール大会」を20年間にわたり開催している。本事業は地域の生涯スポーツ振興のみならず、女性の向上心を高め、建学の精神にも沿ったものである。
96	19	稲城市の子育て支援事業や稲城市以外の近隣地域の教育・子育てへの支援など、幅広く地域社会へ貢献している。
97	19	地域社会との交流活動として、当該短期大学が地元自治体や各種団体と連携して専門分野をいかした取組みを行っている。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅶ　社会的活動（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
98	19	「子育て広場」の取組みを通じて、行政機関や福祉施設などの協力要請にもよく対応し、地域社会に貢献している。
99	19	幼児教育科においてはボランティア活動に関するガイダンスが行われ、多くの学生がボランティアを経験している。また、地域住民が参加できる講演会、研修会、講座が開催されている。
100	19	短期・長期を含めて、海外留学プログラムが豊富で充実し、単位化もなされている。
101	19	授業との関連でクラスごとに分担を決めて通学路や公園の掃除を行っていることは、地域の中にある短期大学にとって有意義なことである。
102	19	教育研究所の公開講座をはじめ、目白学園学生子育て支援サービスによる託児所、子ども学科の「飼育栽培実習」など、地域の生涯学習や地域交流が活発に行われている。
103	19	学生のボランティア活動が社会的活動であるとともに、保育者養成の教育の一環として奨励・推進されている。学生のボランティア活動を支援するために実習・ボランティアセンターが設置され、専門の学習と実習や就職につながって、質の高い保育者養成教育となっている。
104	19	保育学科では、ボランティア活動の事前・事後講義を重視し、学生個々に「ボランティア活動ノート」を作成していることは、その教育的成果の上で意義のあるものである。
105	19	特色GP家庭教師ボランティア活動の継続のため、経費や安全面の方策を講じ、教職員全員で学生の支援体制を取っている。
106	19	歯科医療従事者として、好ましい対人関係や保健医療の職業観を育むために、地域貢献活動やボランティア活動を授業科目に取入れて活動しているが、それ以外にも学生の自主的参加による活動を多数企画している。
107	19	地域社会と協力して、「フルーツ王国・長野in清泉」や「研究交流会 読書と文化」などの地域学習支援活動プログラムを策定し、地域での学習活動を積極的に推進・支援している。
108	19	長野県教育委員会、長野市教育委員会との連絡懇談会を定期的に開催し、学習チューターやボランティア支援についての情報交換、長野市立高校とのカリキュラム連携などにより地方教育行政に積極的に協力している。
109	19	平成13年度より同一法人内の高校と高大連携教育を実施し、高校3年生を対象に英語・国語・保育の3コースを開設している。また、平成14年度より、受講生徒を「科目等履修生徒」とし、日本語日本文学科および英語英文科に入学後は、1単位を認定する協定書を取り交わしている。さらに、平成17年度からは保育コースで高校1年生を対象に授業を実施している。
110	19	海外派遣については、約5ヶ月間の「認定留学制度」があり、協定校からの成績に基づいた15単位までの単位認定や一部の学生に授業料半額免除および奨学金授与を行い、留学制度の推進に努めている。
111	19	多くの教員が地域団体の委員などとして貢献しており、社会的活動に対する関心の高さと貢献度は高い。特に平成18年度は、現代GPに採択された「食をテーマとした地域活性化」に関連して、短期大学部全体で地域貢献活動を展開している。
112	19	学生も多くの地域の行事に参加するなど、地域活動に積極的に取組んでいる。さらに、学長賞の表彰カテゴリーの一つに、ボランティア活動などの地域への積極的な貢献が含まれている。
113	19	地域が求める人材供給に的確に応じ地域社会への貢献を果たしている。地元自治体との包括協定締結、構内図書館施設にはキャリアセンター、地域貢献センターが整備されている。
114	19	地域社会との交流の一環として、当該短期大学の施設、具体的にはクリスタルホール、葵ギャラリー、調理実習室などの貸出しを積極的に行っている。
115	19	高校生とのジョイントファッションショーやクッキングコンテストなどを行っており、当該短期大学の教育内容を高校生に積極的にアピールしている。
116	19	地域の幼児・児童・保護者対象の、学生自身による企画・製作・運営・発表の活動として、授業「保育内容指導法―実践研究―」の最終発表の場でもある「りゅうじょう子どもフェスタ」を実施している。
117	19	当該短期大学の専門性をいかして、講演会、公開講座、学生による医療ボランティアなどの地域活動に積極的に取組んでいる。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅶ　社会的活動（H17～H22）

No	評価年度	(1) 優れた試み
118	19	併設された仏教文化研究センター・育児文化研究センターが、地域社会に対して各種講座を開催し、企業や自治体との共同企画、共催による講師派遣や講座を開催し、学習の機会を提供している。
119	19	平成15年から学生が自主的に取組む地域住民と学生の安全を守る地域安全部会「セーフティたかだ」は、地元密着型で学生主体による地域貢献であり、内容的にも充実している。
120	19	近隣自治体や併設大学と共催で、音楽専門教育機関の特性を最大限にいかした演奏会や公開講座が地域社会に向けて積極的に行われている。
121	19	学生の社会的活動に対し「音楽社会活動賞」の褒賞制度を設定し、社会的活動を積極的に評価するために「社会活動特別実習」として単位認定制度を設けるなど、促進策をとっている。
122	19	ボランティア活動を主体とした、募金活動、ホームレスの人たちへの救済支援など、建学の精神・教育理念に立脚した活動が先輩諸姉の過去の活動から継続している。
123	19	学内に生涯学習センターを常設して、地域の人々の学習ニーズに応えて教養、趣味、技能の向上、資格取得など、それぞれのジャンルにおいて種々の講座を開設して、多くの参加者のもとに長期間にわたって実施している。
124	19	保育学科の学生を中心としたボランティア活動の「たんぽぽ」は、地元行政からも評価され、補助金も受けており、その活動実績は10年を超えている。
125	19	大手前大学との協同活動である「VIO・ボランティア・イン大手前」が伊丹市社会福祉協議会ボランティア・センターに加入し、障害者スポーツ大会の支援などに積極的に活動している。
126	19	地域の一般市民のための公開講座の開講は、地域に根ざした短期大学としての使命を果たしている。こども学科という専門をいかした「音楽リサイタル」と、市民のニーズに応えた「パソコン講座」は、社会活動としての役割を果たしている。
127	19	昭和43年からの国立ハンセン病療養所での泊り込みの奉仕活動をはじめ、様々な社会的活動は当該短期大学の建学の精神に基づくもので、学生は教員の指導支援の下に身をもってその精神を具現化し、地域社会に貢献している。
128	19	市町村や企業からの依頼による、道路沿いの巨大壁画の制作や古代遺跡でのオブジェの制作など、地域に向けた積極的な活動を行っている。
129	19	スペインの大学との学生の訪問やその作品の相互展示などの交流を行っている。
130	19	公開講座の中に「奈良の食文化」や「正倉院文書を読む」などがある。これらは地域に開かれ、地域に育まれてきた当該短期大学の社会貢献、成果の地域社会への還元としている。
131	19	学生の自発的なボランティア活動を教育の中に積極的に取入れていこうとする姿勢がみられる。
132	19	平成13年度に「順正短期大学ボランティアセンター」が設置され、専任のコーディネーターを配置し、高梁市と密接な連携をとりつつ地域に開かれた地域ボランティアセンターとして機能している。
133	19	大学・短期大学に地域生活研究所を設置して、「都市エリア産学官連携促進事業委託研究資金」を獲得している。その活動により製品開発につながる具体的成果が数多く生まれている。
134	19	複数の教員が○○市の審議会委員に加わり、地域貢献のアクティビティは高い。
135	19	ボランティアセンターの設置、単位認定科目の開講、MAS賞など学生のボランティア活動を奨励支援する施策がとられている。
136	19	平成11年度より開講しているオープンカレッジを通して、積極的に当該短期大学を社会に開放して教育と研究の成果を地域に還元している。受講者は毎年800名近くになり、豊富な内容の講座を提供している。
137	19	学生自治会が主体となって昭和30年から現在にわたってボランティア活動を続けており、地域社会へ貢献している。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅶ　社会的活動（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
138	19	教養教育科目のボランティア・ワークⅠで、特定非営利活動法人（NPO）などから外部講師を招き15回の講義を行い、ボランティア・ワークⅡでは、30時間の体験学習を学生自ら計画して実践している。この科目が、学生が積極的に社会活動を行う基盤となり、学校全体における社会的活動の活性化の役割を果たしている。
139	19	地域活動やボランテイア活動が、地域観光の事業と相応しており、研究室制度が有機的に働いているのがみられる。また、地域社会に対して数多くの公開講座を開講し、3,000人近い住民を受け入れ、地域への還元を行っている。
140	19	平成16年度の地域参画推進事業の学外拠点施設としての信愛コラボレーションプラザリリウムの設置と活動に対して、「地方都市における地域参画型短期大学教育」として文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」の採択を受けている。
141	19	図書館の地域開放を平成2年から行い、学生と同一条件で貸出・閲覧をさせ、かなりの利用実績がある。
142	19	地域密着型短期大学の一つの在り方として、当該短期大学独自で「小学校英語教育活動」の支援をしている。
143	19	長年にわたり短期・長期留学を積極的に行い学生の英語能力の向上に努めている。半年間の単位認定留学が行われており、その準備のための教育課程も整備され、高い英語コミュニケーション能力をもつ学生の養成に役立っている。
144	20	「地域社会の文化の向上と福祉への貢献」という教育理念を実現するため、生涯教育センターを設置し、年間10講座、35講義の公開講座を開設して、地域社会への貢献を図る取り組みを行っている。
145	20	図書館の地域開放を行っており、また、当該短期大学周辺地域の月寒地区において、町内会や商店街と連携して新聞作りやウェブサイトの作成などの協力を行っている。
146	20	地元小学校の児童英語教育に対して教員や英文学科学生の協力体制を築き、実践している。
147	20	地域に公開する「農業セミナー」や「保育セミナー」、全学科あげての「総合芸術（ミュージカル活動）」は長年にわたって実施されており、学生の教育研究活動に寄与するとともに、地域にも定着し市民から高い評価を得ている。
148	20	キリスト教に基づいた教育理念の具現化の場として①キリスト教の理解、②ボランティア、③平和の実現、④地域社会との連携、という四つの柱を定め、全学的に認知された活動を行っているスミス・ミッションセンターを機能させ、学生のボランティア活動などの社会的活動が促進されるようなプログラムやシステム作りがされ、活発な活動が展開されている。
149	20	認知症への理解を深めるため、教員と学生による劇団「あどはだり」を結成し、学内外において演劇による公演活動を行っている。
150	20	高齢者介護における高齢者の言葉の理解のため、介護実習指導の授業の中で「津軽ことば講座」を設け、円滑なコミュニケーションを目的として津軽弁の知識を教育している。
151	20	現職の幼稚園教諭・保育士のためのリカレント講座を開講しており、地域社会に貢献している。
152	20	仙台市教育委員会と締結した覚書により、平成20年度より希望した学生を仙台市立学校に教育補助のボランティアとして派遣している。
153	20	地元自治体から委託されたサテライト・キャンパス事業として「まちなか子育て支援事業」を行い、預かり保育や高齢者・障がい者ガイドヘルプ、子育てや介護の個別相談などを毎週実施し、それらに学生も多数参加している。
154	20	エクステンションセンターや地域連携センターを開設し、併設四年制大学と合わせて年間100講座程度の公開講座や、卒業生対象の管理栄養士国家試験対策・リカレント教育などを実施するなど意欲的である。また、水戸市を始め近辺の市と協定を結んだり、茨城県教育委員会との「茨城ゆうゆうカレッジ」や「高大連携事業」など、行政と連携して事業を展開している。
155	20	平成18年度には高等学校側からの要請を受けて特定の高等学校と連携校の提携を結び、平成19年度には年間合計8日間（出張講義2日、当該短期大学キャンパスで6日間）講義や実習を行っている。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅶ　社会的活動（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
156	20	公開講座には、コーラス、陶芸入門、臨床心理学、日常英会話、パソコン入門など、教育内容を十分に発揮した多彩な講座が設けられ、所沢市、狭山市など近隣地域の市民530人（平成19年度）が参加し高い評価を得ており、地域に密着した高等教育機関の社会的活動として大きな実績をあげている。
157	20	国語国文専攻に設けられた国語国文学会の活動に積極的に学生を、活動に参加させている。また、英語英文専攻においては、卒業生や地域の社会人などを対象にした「小学校英語指導者養成講座」を土曜日に開講するなど、地域・行政のニーズを満たす活動を行っている。
158	20	市町村との一般的な協力にとどまらず、地元吉見町と取り交わした「地域連携に関する協定書」に基づき人的・知的資源の交流が実施されている。ほとんどの教員が社会的な活動に従事し、教育研究を通じて地域社会への貢献を果たしている。
159	20	狭山ケーブルテレビと連携して、教職員や学生が取材したものに専門家が手を加えた番組を制作し、それらが年間を通して毎日放送（毎週木曜日更新）されている。
160	20	派遣奨学生として留学から帰国した学生を外国人ゲストとのパネルディスカッションに参加させるということは、在学生たちのみならず参加の地域住民に対しても当該短期大学の評価を高めている。
161	20	「芸術のまちづくり」構想として、地域社会の行政と連携して行われている交流活動と、それが今後更に拡大する状況にある。
162	20	「専任教員海外研修規程」により専任教員の海外研修制度がある。
163	20	ボランティア活動を短期大学の行事と同様のものとみなし、その活動を奨励する体制が整備されており、学生の専門能力の向上と社会的活動の支援を第一義とした支援が効果的に行われている。
164	20	高等学校教育への支援活動、生涯学習支援活動、行政や公的機関などからの専門委員への委嘱を受けるなど、地域との交流を積極的に行っている。学生のボランティア精神の育成に心がけ、ボランティア活動を積極的に評価し指導している。
165	20	社会的活動の位置付けが明確であり、社会人の受け入れ、公開講座や正規授業の開放、地域との連携及びボランティアセンター設立による国際的な支援活動などにも積極的に取り組んでいる。
166	20	昭和30年より地域文化振興行事として、正眼寺との共催で「正眼寺夏期講座」を開催し地域に密着した活動を行い、一連の活動は地域からも信頼されている。
167	20	子育て支援センター「あそびの森」は、「子育ち親育ち・学生の心の育成」を合言葉に未就学児、親に遊びを提供するもので、学生も授業の一環として参加するものである。地域社会への貢献と学生教育が合致した好事例である。
168	20	社会人の受け入れを促進させるため、授業料半額免除の特別優遇制度を設置し、卒業生リカレント制度も導入して、経済的な支援を含め社会人を積極的に受け入れる制度が整備されている。
169	20	通学路の清掃活動や豊橋商工会議所が主催するエコテクノレース車検員ボランティアへの派遣など、地域とかかわりを持つボランティア活動を継続して実施している。
170	20	保育科を中心に運営している「保育子育て研究所」の活動や豊明市教育委員会との提携、公開講座が学内で開催されている。平成19年度からは名古屋市生涯学習推進センター主催による大学連携講座に参加している。
171	20	平成14年より、乳幼児総合研究所で、地域子育て支援事業として「すみれがーでん」を開始し、地域の母親と未就園の子どもが参加し、学生への教育活動も含め、地域の子育て支援に貢献している。過去3ヶ年の状況は登録児数30数人～60数人となっている。
172	20	滋賀県内13大学・短期大学が協定を結ぶコンソーシアム（環びわ湖大学連携推進事業）が機能し、滋賀県特有の科目（「滋賀の食事」など）を設定する一方、学生の多様な受講など単位互換などが有効に行われている。
173	20	学生と教員による、足の不自由な人のための京都散策福祉情報地図「はーとふるまっぷ」の作成は、地道で継続的な社会福祉活動として認められる。
174	20	海外の提携大学における長期語学留学制度があり、毎年学生を派遣している。これは、特に多様な資格や進路を目指すライフデザイン学科にとって大切なことである。
175	20	公開講座「土曜サロン」を開講し地域交流を推進している。また、毎年、卒業生を対象とした管理栄養士国家試験対策講座を行い、確実に合格者を輩出し、顕著な成果をあげている。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅶ　社会的活動（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
176	20	全学園的なエクステンションセンターを設置し、専用の施設において地域連携を深め、短期大学の教職員もこれに積極的に参画している。
177	20	茨木市及び茨木商工会議所との産官学協定の締結や近隣都市との提携講座の開催など、地域社会との交流・提携に積極的である。
178	20	社会人入学の前段階として、託児付モニター聴講生制度を設置している。
179	20	地域の幼児とその保護者に対する図書館開放や読み聞かせ・紙芝居などの企画は評価に値する。
180	20	地元商店と共同して、実際の菓子商品「橘の珠依姫」開発が実現している。
181	20	近隣の県立高等学校との間に高大連携協定を結び、高校1年生の必修科目として、夏季休業期間前の1週間、大学生活を体験させている。
182	20	学生の学内ボランティア団体であるGBA（GIRLS BE AMBITIOUS）の地域社会を巡回しての公演活動（地域の保育所、公民館、児童館などを巡回しペープサート、ブラックシアター、創作オペレッタなど）は、教育を実践の場に生かし地域のニーズにこたえている。特に「備前地域子育てキャラバン事業」は学生のニーズに見合った活動としても注目される。
183	20	地域社会に対して開かれた短期大学としての自覚ある活動がされている。特に、公開講座の内容は魅力的である。
184	20	平成12年度に開設した生涯学習センターが当該短期大学の知的資源を始めとする様々な講座を開設し、地域にも定評を得て多数の受講者を迎え入れている。
185	20	学生の学習成果を地域に還元する取り組みが複数されている。とりわけ演劇放送フィールドは筑後市のホール「サザンクス筑後」と連携し、地域文化の振興に大きな役割を果たしている。
186	20	平成16年4月から会員制の筑紫女学園大学・短期大学部サテライト・スタディオ「みんな塾」を開設し、主に子育て支援活動と子育て学習の機会の提供を行っている。
187	20	特別支援学校などを定期的に訪問し、実際に障がい者との係わりを体験することから、保育士・幼稚園教諭としての資質を高めようと努力している。
188	20	地域住民と学園の信頼関係を築き、相互理解を深めるために自治体関係者、町内会役員、当該短期大学教職員、学生代表から構成される「キャンパスサミット」が2ヶ月ごとに、10年間にわたって開催され、多大な成果をあげている。また、平成17年度にはNPO法人「大学・地域交流まちづくり実行委員会」を立ちあげて、教職員・学生も地域社会に幅広く貢献している。
189	20	平成19年度には文部科学省の委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」による教育研究資源を活用した実践的教育への取り組みとして、「eビジネスで活躍するためのWebデザイン学びサポートプログラム」が採択されている。
190	20	音楽科音楽療法コースは、「音楽療法学生会」を組織し、地域の高齢者から児童までを対象にボランティア活動（音楽療法活動）を年間30回程度実施している。
191	20	地域密着型の短期大学として、公開講座の開催や「高等教育コンソーシアム熊本」の加盟校として高大連携、子育て支援、インターンシップなどの各種事業での活動など、学生と教員による地域活動、地域貢献が行われている。
192	20	平成14年度より中津市の委嘱を受けて「中津市愛育研究センター」を設置したり、長年にわたり「チャイルドフェスティバル」を開催したりするなど、地域貢献を積極的に行っている。
193	20	伝統的に地域活動に熱心で、学科の特色を生かした「卒業制作料理試食会」、「子どものためのミュージックカーニバル」、「高齢者の逆デイサービス」を始め各種行事に取り組んでいて地域社会の評価も高い。ボランティア活動として、日本プロバスケットボールbjリーグ開催中の託児サービスを行い、短期大学主催の行事に福祉施設関係者や保育園児などを招待している。
194	20	地域社会に向け、活発に継続的に多様な公開講座を開講している。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅶ　社会的活動（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
195	20	地域との密着度の高い当該短期大学の特徴が発揮されており、全学的にも、学科・専攻単位でも、当該短期大学の使命である教育・研究・地域貢献の中で、地域貢献が十分に実現されている。
196	21	地域社会に対して充実した公開講座を開催し、生涯学習センターの設置に伴い、更に講座数を増加させている。
197	21	地域社会との密接な関係を築くためのコミュニティ放送局FMラジオ講座への教員派遣や、地域住民を対象にしたカウンセリングサービスを積極的に実施している。
198	21	○○市教育委員会と○○市内4大学2短期大学とが連携して行っている大学開放市民講座「ふるさと江別塾」、社団法人○○市シルバー人材センターの要請に応じて運営される「子育てサポート講習」、子どもの運動能力・体力向上を目的として札幌市の区民体育館で展開する教室「げんきキッズ」等の試みが継続的に地域貢献し、市民に受け入れられている。
199	21	○○生涯学習センターを窓口にし、正規授業「カウンセリング概論」「人間関係論」を開放し、聴講生として毎年数人受け入れている。平成20年度から出前講座を始め、全教員が講座を担当し実施している。派遣要請のあった保育所・小学校・介護施設等に出向いている。
200	21	「リクリエーション演習」では3日間のボランティア活動を義務付け、「学外ボランティア」を時間割に位置付け、小学校での英語指導のボランティアを「子ども英語指導実習」と関連させるなどボランティア活動と授業科目等との関連を図っている。
201	21	国際交流センターが設けられ、各種留学制度を完備して、学生の留学に意欲的に取り組んでいる。アメリカ合衆国や中国に姉妹校が3校あり、中国の姉妹校とは、交換留学制度を実施し、学生の留学、大学責任者・教員同士の双方向の訪問を行っている。姉妹校へは毎年1人教員を派遣している。
202	21	岩手県知的障害養護学校長会から依頼を受け、イベント「Tryスポーツ」支援ボランティアとして幼児教育科学生が約30名、毎年参加している。
203	21	教育施設や教育の知識・技術を地域社会へ還元することに積極的であり、全学的・組織的に社会活動に取り組み、地域の拠点にもなっている。
204	21	全学的に社会的活動に取り組んでいる。学生も全員が主体的な取り組みをみせ、結果として社会福祉主事任用資格を取得している。
205	21	ボランティア活動の経験を文集としてまとめ、図書館に配架し公開しており、社会活動への動機付けや、体験の全学的な共有を行っている。
206	21	地方自治体や商工業界、教育機関から「伝統食品活用研究事業」、「先端技術を活用した農林・水産研究（地場産小麦の麺への適性解明）」、「市中心街活性化推進委員会」の依頼に対して、教員を積極的に派遣し、教員の専門性を生かした地域貢献が行われている。
207	21	福島市、福島県の要請と支援を受けて開設された福島駅前キャンパスでは、公開講座、生涯学習授業のほか、正規授業を社会人に無料で公開する「無料公開授業」を併設四年制大学とともに実施している。
208	21	当該学校法人と地域の産・官が提携した「人材寄付講座」は、産・官から無料で講師を招き、各種の講座を市民に無料で開講するもので、平成18年度以降平成20年度まで毎年34～38回の講座が開講されている。
209	21	地域社会への公開講座の開催、高校生を対象とした出前講座、市教育委員会と連携しての市民大学講座、NHK宇都宮支局と連携してのNHK文化センター講座と活発に社会的活動を実施している。
210	21	校舎外に「教育センター」を建設し、数多くの公開講座や短歌教室を開設し、種々の企画展示を開催して、地域との交流・連携を図っている。
211	21	「九里総合福祉文化研究所」を設置し、専門家である教員と社会･地域との実務的な接続をコーディネートしているが、この存在・活動が社会人受け入れに大きく寄与している。また、この研究所の活動によって、教員や学生が社会との接点を持ち有効な社会的活動の展開が継続的に行われている。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅶ　社会的活動（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
212	21	学生の社会的活動を支援するために当該短期大学では、平成19年度からボランティアを斡旋するための窓口などの組織を作り、また教養科目にボランティア科目等を開設し、単位認定と関連を持たせながらボランティア活動を推進している。
213	21	短大会を始めとする各種団体が年4回、3日間にわたり大学周辺及び大学から最寄り駅までの道筋の清掃とごみ拾いを行うなど、地域に貢献している。
214	21	子育て支援事業として、公開講座「めいトーク保育講座」、養成講座「子育て支援スタッフ養成講座」、勉強会「子育て支援スタッフ研究会」を定期的に開催し、また、千葉県民間保育振興会研修委員会と共催で保育実践研究会を開催している。特に、平成10年に始まった地域の親子のための遊びの教室「親子教室」を展開して、17年度に、「保育者養成における子育て支援・教育モデル～育ち合いのひろば『ほっとステーション親子』～」として特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）に選ばれた。
215	21	「○○大学・短期大学ボランティアセンター」がボランティアアドバイザー講座を開講し、ボランティアリーダーを育成している。また、ボランティアセンターを通したボランティア活動や、地域社会に向けた授業や講座として、「共立アカデミー」と共同で毎年テーマを決め公開講座を行っている。さらに、地域社会との交流・連携活動についても、文部科学省、千代田区、越谷市、神保町などと教員だけでなく多数の学生がかかわりをもって活躍している。
216	21	「特色ある大学教育支援プログラム」（特色GP）にも採択された「ヒーリングアートプロジェクト」は、平成4年より取り組み、これまでに30箇所以上の施設で実践されている。
217	21	併設大学と協力した女子美オープンカレッジセンターは、「公開講座」、「市民大学」、「女子美アート・セミナー」、「臨床美術士認定試験講座」など専門性を生かした講座を多彩に開講し、地域住民や卒業生の生涯学習の場となっている。
218	21	公開講座や地域との交流など社会的活動が活発になされている。また、社会的活動を学生の重要な人間育成の場ととらえ、病院や高齢者施設などでのボランティア活動に積極的に参加させている。
219	21	イタリアやタイの海外教育機関と連携して多様な国際交流を行っている。
220	21	「ヒューマンライフ支援センター」は、長年にわたり培ってきた家政学等専門分野の知的資源を、地域社会に還元することを目的とし、例えば学生たちがレシピを開発して配布するなど、社会での実践教育の在り方を試行する場として機能している。
221	21	地元の八王子市を中心とする地域社会における公開講座などについて、美容技術や介護福祉技術を実践しながら、例えば「たのしい美容とワークショップ」や八王子市主催の「いちょう塾」への参加や、その他ボランティア活動に積極的に取り組んでいる。
222	21	韓国・台湾・香港など東アジア地域の諸大学等と交流協定を締結し、国際交流・協力に積極的に取り組んでいる。また、国際理解教育として、全学的に9日間のヨーロッパ研修旅行を実施している。
223	21	生涯学習セミナーによる高齢者の口腔ケア、学生による文化祭での無料歯科検診など、専門の学科の特色を生かした、地域の保健活動への貢献は社会的意義が高い。
224	21	保育センターが地方自治体との協力による、現役保育者のスキルアップ研修の場に指定され地域社会に大きく貢献している。
225	21	「地域文化研究会」を設置し、その機能の一つである「地域交流センター」と協働して、地域への研究成果の還元あるいは支援事業等の企画、実施に向けての努力がみみられ、また教育指針である「ふるさとを愛し、地域社会に貢献する」という観点から、地域とのかかわりを重視している。
226	21	学生たちの社会的活動は有意義な学習体験としてとらえ、積極的に押し進めており、その成果は、公立図書館等での「オリジナル紙芝居」の上演や、NPO法人「ちびっこはうす」主催の「子育てサークルフェスティバル」への協力などがあげられる。
227	21	地域連携を教育活動の柱として掲げ、社会連携委員会を設置し、社会人向けの開放講座の開設や地元諸機関との連携セミナー、社会人の資格取得支援講座等の開講に積極的に取り組むと同時に、地域の教材化の研究などに意欲的に取り組み、平成18年度には学内に「佐久地域文化研究センター」を設置し、地域連携を図っている。
228	21	幼児教育学科が、地域社会に対して積極的に研修会、研究大会、実践講座を実施している。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅶ　社会的活動（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
229	21	学生のボランティア活動については、地域の各団体やイベントとの連携が定着しており、相互に年間計画に位置付けられ安定的な活動が展開されている。
230	21	地元小学校・中学校での調理実習授業、地元市への支援事業、あるいは幼稚園・保育所、児童養護施設、知的障がい者施設の催事への参加など多岐にわたるボランティア活動が実施されている。
231	21	長期・短期の留学制度が整備されている上に、四年制の外国語大学が併設されていることから、学内においても外国人留学生との交流のためのスペースが設置されたり、授業に外国からの留学生を招いたりするなど、学生が様々な面で国際交流を実施している。
232	21	キャリアデザイン学科の1、2年生すべてのゼミナールが地域FMで放送番組を担当するなどの活動を通して、地域とのつながりを意識する体験が在学中にできるという貴重な試みが行われている。今後、「名駅サテライトキャンパス」でも、これらを地域に浸透させていくことが期待される。
233	21	学科・専攻それぞれの特性を生かした地域社会との多彩な連携・交流活動への取り組みがなされており、「総合科学研究所」では、「開かれた地域貢献事業」が行われている。
234	21	地域社会・地域産業界からの要請にこたえるために、地域住民対象の「IT講習会」「留学生語学講座」「けいたん留学生交流会」「教育と地域社会シンポジウム」などの実施、「社会活動認定制度」の正課科目への導入など、積極的に取り組んでいる。また、「洛西ニュータウンまちづくり検討会」など、地域との連携にも努力している。
235	21	調理製菓学科では「平野幼稚園食育講座」、「卒業記念バンケット」が、幼児教育・保育科では「子どもシアター」、「坂の上の音楽会」、「アソビと造形展」など、教育成果を外部に公表する取り組みが実施され、地域社会と密接にかかわっている。
236	21	地域と連携し、施設を開放することや生涯学習室を整備し、公開講座を開催するなど、開かれた短期大学作りに取り組んでいる。
237	21	ボランティア論、フィールド・スタディを通して、神と人に仕えるという建学の精神につながるボランティア活動が積極的に行われている。
238	21	日韓三大学美術デザイン交流展に毎年参加、日中交流作品展に隔年で参加、大阪芸術大学グループとの間で毎年、ミラノインスティチュート（学生作品の交流展）を開催するなど海外教育機関等との双方向的交流をしている。
239	21	広報学科・デザイン美術学科が学科の特色を生かして、毎年、伊丹市内の市立中学校にて「トライやるウィーク（兵庫県発表事業）」として絵画・粘土・陶芸・コンピュータグラフィックスなどの制作教室を行い、地域の中学校と効果的な交流活動を行っている。
240	21	ベトナム社会主義共和国のホーチミン市立幼児師範学校（現在のサイゴン大学）との間に「学術交流協定」を締結し、教員・研究者の交流、学生の交流等、国際交流を双方向で進めている。将来、外務省の協力を得ることも視野に入れている。国際交流を充実させる意欲がうかがえる。
241	21	障がい者を理解し、障がい者との交流を深めるために、学生食堂の運営と清掃業務を社会福祉法人「コスモス」及び「いずみ野福祉会」の障がい者作業所に委託している。学生が、在学時代から障がい者を理解することにつながる。教育目標に標ぼうしている「地域協力」、「人権教育」の実践の一例となっている。
242	21	附属「福祉実践研究センター」を設置し、ケアワーク研究大会、常設の研究会、キャリア・アップ支援、地域支援活動、調査・出版活動等を行っている。学生の卒業後のキャリア形成の支援により、卒業生・地域との連携を深め、学び直しの実践、教育の継続、地域貢献へもつながっている。
243	21	全学的に学生のボランティア精神が高く、平成20年度には「女子学生のための地域活動力育成プログラム」が新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援GP）に採択され、学生が地域に積極的にかかわっていく取り組みを教職員と学生が一丸となって行っている。
244	21	平成20年より実施している藤井寺市との連携が学生にも教職員にも良い刺激となり、教育効果や学生指導にかかわる創意工夫を多様に生み出している。地域の子育て支援活動として地域子育て支援研究所を設置し、定期的に研究所で行われる研究・教育活動には全学的な人的リソースが使われ、学外の研究者も参加している。
245	21	ボランティア活動はサークル活動の一つでもあり、学生の社会的活動・社会貢献を教育の一環としてとらえ、積極的に参加している。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅶ　社会的活動（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
246	21	留学生を多く受け入れているという当該短期大学の特性を生かし、留学生と地域住民のそれぞれが互いの文化を理解する、双方向的交流が行われている。
247	21	奈良県内の教育関係者を対象とした「国際交流教育研究協議会」は、文化の相互理解に大きく寄与しているほか、海外研修ツアーの現地ガイドに卒業生をあて、卒業後の関係の維持も図っている。
248	21	建学の精神・教育理念に基づき社会的活動への取り組みが積極的に推進されており、特に地域社会（行政、商工業、教育機関、文化団体等）と連携した地域貢献プロジェクトが7つ実施されている。
249	21	全専任教員に高大連携可能な科目テーマ、講義概要、時間等調査を行い、講義データバンクを作成するとともに、県内の高等学校と連携協力に関する協定を締結し、様々な支援を行っている。
250	21	地域の高等学校が参加する電動カート性能評価会、四国EVラリーへの会場提供、民間企業からの外部委託試験の協力、公開講座など、当該短期大学の特長を生かした地域貢献活動が行われている。継続的に留学生を受け入れるなど国際交流の取り組みが積極的に行われている。
251	21	社会人を積極的に受け入れており、平成21年度では、職業訓練実施校でもある県立高等技術専門校より養成の委託を受けた学生を含めると3割にのぼる。大学全体として地方自治体等と協力しながら地域と連携した活動を行っており、また、教員は各自の専門性を生かした専門委員や講師等、地域に根ざした貢献活動が行われている。
252	21	各学科の専門性と関連した学生のボランティア活動が地域の様々な機関と連携しながら行われている。また、ボランティア活動を授業科目として設定し、学生の学びや育ちの機会としてとらえている。
253	21	外国人留学生の受け入れに関して意欲的であり、数多くの留学生在籍者がいる。入学後のサポートも組織的に取り組んでおり、学生国際交流協力事業会、地域交流センター等が留学生を支援し、地域にとけこむ体制を整備している。
254	21	平成18年度に、短期大学内にカタリナ子育て支援広場「ぽけっと」を立ち上げ、地域の子育て支援を行っている。
255	21	地域社会と連携したボランティア活動を積極的に行い、学生の社会への参画能力を高め、地域社会に貢献できる人材の育成を目指し、「ジレット賞」という学生の表彰制度などを通して、学内外を問わず、奉仕活動をする学生の活動を活性化している。
256	21	地域の子育てサークルである「ふたごの会」や「みなみちゃいるどNET」の子ども達に短期大学を開放して、パネルシアターなどの上演による子育て支援をしている。
257	21	高等学校との高大連携をはじめ、高校生に短期大学の授業を体験させるなど、進路教育に貢献する試みをしている。
258	21	「こくらハローズグルメマップ」の制作、「ハンドベルクワイヤー」の取り組みは、社会への貢献のみならず、学生に対する教育効果も期待できる。
259	21	生活創造学科において「ボランティア演習」を必修科目とし、専任教員の専門領域に近いボランティア活動を設定している。
260	21	「地域資源開発」の講座により地域と連携して地域の活性化を課題とした人材育成に取り組んでおり、成果をあげている。この取り組みは教育GPの採択を受けている。
261	21	食物栄養学科では、平成19年度より、生涯学習、キャリア養成構想の一環として社会人を対象とした「管理栄養士国家試験対策講座」を開講している。直近の講座の受講生は76人で、開講回数は45回であった。
262	21	小規模短期大学であるにもかかわらず、市民市場への出店、園芸に関する公開講座、毒物劇物取扱者試験対策講座、園芸療法公開講座、電話などによる園芸相談、地元紙への園芸記事の掲載、テレビ・ラジオ出演等、積極的に各種の活動を行っている。
263	21	「ピースメーカー」、「他者に仕える」という建学の精神に基づき、幅広い地域貢献、ボランティア活動が実践されており、中でもWLO（We Love Okinawa）サークルによる清掃活動は、環境問題に対する意識向上、地域との連携・協力に貢献している。
264	21	近隣の小学校への学校支援ボランティア、那覇市教育委員会、南城市教育委員会と提携した小学校の学習ボランティアの活動は教師を目指す学生にとっても現場から吸収するものは大きく、教員養成機関として今後も継続していきたい取り組みである。
265	22	短期大学として積極的に社会的活動にかかわる責任と理念が明確になっており、各学科の特性を生かした取り組みをしている。また、平成17年度から継続的に行われている子育て支援センター「んぐまーま」での活動は、地域に溶け込んでいる。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅶ　社会的活動（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
266	22	地域社会との交流・連携等に関する、学生や教職員の取り組みは、特に学生にとって学内の学習のみでは得られない経験や視野の広がりをもたらしている。音楽科では併設大学との共同開催による演奏会や公開授業を行っており、また、美術科では産学官の連携による活動、高等学校との連携による企画を行っている。
267	22	北海道ならではの行事、「世界ラリー選手権・ラリージャパン」及び「ラリー北海道」に、毎年ボランティア・オフィシャルとして学生が参加している。
268	22	当該短期大学の学生として専攻やコースの学習内容を生かし、青森ねぶた祭りへの参加、文化祭でのねぶた資料展示など、地域社会の交流活動を通して地域文化興隆に貢献している。
269	22	教職員の教育研究を社会に還元すると同時に、社会の要望にこたえた教育研究活動の必要性から、「地域文化研究室」を設置して、社会的活動を積極的に推し進める体制を整えている。
270	22	「自由活動旬間」の取り組みを通じて、地域の自然と文化を知る取り組みや地域のボランティアを企画し実践している。
271	22	盛岡北ロータリークラブのローターアクトクラブに参加し、地域だけでなく、国際的にもボランティア活動を積極的に進めている。
272	22	「子どものためのファンタジックコンサートの開催」、「中尊寺『花祭り』への参加」、「知的障害者更生施設及び知的障害児施設におけるボランティア活動」など年間20回実施している実績がある。
273	22	地元の地方自治体（一関市）が主催する「地方産業祭り・商工祭」に参加し、学外実習として位置付け支援協力を行っている。
274	22	併設大学との共同活動以外に、独自の公開講座や地元企業との共同研究を継続的に実施していることは、当該地域における当該短期大学の重要性を強く自覚したものであり、評価できる。
275	22	クリスマスコンサートなどキリスト教系の特徴を生かしたイベントを実施し、地域住民との交流を図っている。また、学生が東京・山谷でボランティアとして支援活動に参加している。
276	22	特別支援教育を推進するために、「障害児保育研究センター」を設置し、障がい児教育の相談・支援活動において優れた成果をあげ地域に貢献している。
277	22	全国の女子高生を対象に、韻文部門、散文部門の2部門で「茨女国文」文学賞を運営し、高校生の文学振興を図っている。入選作品はウェブサイト上に掲載するほか、国文科の専門誌「茨女国文」にも掲載している。
278	22	地域の要請に応じる社会的活動を積極的に行っている。その一つに毎年当該短期大学の教員が講師として貢献できる講義内容の一覧を40前後の生涯学習機関へ送付し、派遣依頼に応ずる活動がある。
279	22	平成19年度以来、近隣の幼稚園や保育所、小学校と連携を取りながら「うつのみや百景と風景を描く子ども絵画コンクール」を開催し、その中でワークショップに学生も参加するなど、学科の専門性を生かした地域貢献活動を展開している。
280	22	地域に開かれた短期大学を目指し、公開講座や地域子育て支援事業を展開することで、社会に知的財産を還元する機会を設けている。
281	22	生活科学科では、みどり市に暮らす高齢者の方々へ手作り弁当を提供する「シルバーランチ」のボランティア活動が、十数年にわたって続いている。
282	22	アート・デザイン学科では、わたらせ峡谷鉄道の列車内でのファッションショーなど多くのイベントに学生が参加協力し、桐生市やみどり市の各種イベントのポスターデザインの制作も行っている。
283	22	専任の事務職員を配置したボランティアセンターを設置し、学生に対する支援を組織的に行うことで、群馬県レクリエーション大会やあそか会祭り等のボランティア活動に全学生が積極的に参加し、社会に貢献している。
284	22	子ども・家族支援センターは、親子ふれあい教室やベビークラスを通して地域住民の子育て支援を行っている。また園・学校生活における不適応（発達障がい等を含む）などの問題を持った子どもを持つ母親に対して、小児科医、精神科医、精神保健福祉士、保育士などの有資格者がアドバイスをし、また学生たちが総合演習の一環としてかかわるなど、社会的活動を推進している。
285	22	「教育モットー」にのっとった、ボランティア精神をただ説くだけではなく、地域貢献・地域交流活動を実践し、学生一人ひとりの心に根付く努力をしている。
286	22	学校近隣の福祉施設や児童館などへ、土・日曜日や長期休暇中に学生を派遣するなど、専攻の専門性を生かしたボランティア活動を展開している。
287	22	アジア唯一のハープコンクールである「国際ハープフェスティバル」を草加市、日本ハープ協会及び当該短期大学・併設大学で共催し、当該短期大学の学生も出演している。
288	22	語学試験優秀者の留学参加に対し、学費の一部を免除する奨学金制度を作り、目的意識が高くても経済的理由で留学が困難な学生を支援している。
289	22	地域の子育て支援施設の管理運営に当たり、教員による特別講座や学生のボランティアサークルを中心にしたボランティア活動が積極的に行われている。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅶ　社会的活動（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
290	22	平成21年度の公開講座等は、多くの講座、多数の参加者を集め、内容の充実とともに、地域社会への研究成果の発信が学園の大きなアピールポイントになっている。併設大学・当該短期大学の共同開催講座として、地域社会への貢献度が高い。
291	22	当該短期大学の教育理念に基づき、「港区芝地区総合支所と戸板女子短期大学との連携協力に関する基本協定書」を締結し、地域社会に貢献する活動を積極的に行っている。
292	22	学生は、ボランティア活動として病院で演奏会を行うほか、各種演奏会、オペラ公演、音楽教室等を行って地域社会に貢献している。
293	22	研究目的による海外出張や研修のほか、体育大学という特性上、国際大会への海外派遣が多い。また、高大連携については、教育交流により相互の教育内容等の理解を深めることと中等・高等教育の活性化を目的に、併設大学と合同で五つの中学校・高等学校と協定を締結して、要望に応じて教員が出張授業を行っている。
294	22	ボランティア活動として学生の「クリーン清掃活動」は地域住民からも感謝されており、更なる活動の活発化を図っている。
295	22	学生が参加するユニークな地域貢献連携プログラムを実施することにより、飯山市の和紙文化や産業の発展に貢献している。
296	22	海外に学術教育協定校が3校あり、相互交流が行われている。また、生活デザイン学科の教員が平成21年度イタリア・ボローニャ国際絵本原画展に入選した。
297	22	教員は地域社会へ積極的にかかわり、保育所の相談員や幼稚園における保育アドバイザーの役割を担い貢献している。
298	22	学生の福祉施設への年末プレゼント活動はユニークな取り組みであり、学生全員による共同参加活動「アッセンブリー」の時間等を使ってプレゼントを製作している。
299	22	近年の理工系離れをくい止めて社会に貢献することを目的とし、小学校・中学校・高等学校の要望にこたえて積極的に出張授業を実施している。
300	22	「北陸学院大学地域教育開発センター」において、併設大学と連携した公開講座等を開催し、周辺住民の生涯学習やスキルアップ、キャリアアップに貢献している。
301	22	原子力施設の立地地域における地域連携を図るために、高等学校に出前授業（原子力安全学・人間安全学・産業安全学）を実施している。これは、若い世代に原子力リテラシーを高め、今日のエネルギー政策のあり方を多面的に考える力を培うことが期待される。
302	22	駅前商店街通りに地域交流の学外拠点「カレッジギャラリー敦賀屋」を置き、授業内容とつながる形で在学生と卒業生、教職員の地域活動・交流を推進し、短期大学の情報発信・情報収集の場として役立てている。
303	22	教育環境は整備され、図書館をはじめ運動場、体育館等の施設・設備を地域の一般市民に開放している。
304	22	ボランティア活動を重視し支援するために、教育課程にボランティア活動の科目を設定している。学生は地域において積極的に活動している。
305	22	卒業生や介護施設の介護職員を対象としたキャリアアップ支援研修会は、受講希望者が多く内容も充実している。また、地域中学生を対象とした介護講習会も行っている。
306	22	「介護の質を高める会」など介護学科主催の公開講座及び地域社会との交流事業「ふれあい健康教室」「おとぎ祭（血圧測定・健康相談）」などは、高齢者の多い地域とうまく結びついている。
307	22	当該短期大学主催の「夏季大学」、「子どもフェスティバル」は共に30回を超えている。夏期大学は毎回、学生や教職員の積極的な参加の下、現場の保育士・幼稚園教諭や一般市民も多数参加している。
308	22	二つの学生のボランティア・サークルが、20年以上にわたり、浜松市内の障がい者施設や知的障がい者の施設で環境設定から遊びのサポートまで行い信頼を得ている。
309	22	地域社会との密接な関係を築いている。歯科衛生を通して地域住民の健康に取り組んでいる。
310	22	実習施設の老人保健施設「アウン」との交流会、当該短期大学において認知症高齢者の機能向上及び自立を目指して開催した運動会に学生がボランティアとして参加するなど看護短期大学という特徴を生かした地域社会への貢献を行っている。
311	22	禁煙講演会等を開催し、地域社会の健康づくりへ大きく貢献している。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅶ　社会的活動（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
312	22	大学独自の公開講座に加え、地元の自治体・高等教育機関及び商工会議所と連携した公開講座の開催など地域社会や産業の発展に向けた社会的活動に積極的に取り組んでいる。
313	22	「愛知大学短期大学部と高等学校との連携に関する要綱」を定め、地元の高等学校と「連携に関する覚書」を締結し授業提供をするなど、長期的・定期的な高大連携に努めている。
314	22	地域貢献推進部が設置され、社会的活動の位置付けが明確にされている。地域貢献推進ガイドライン（指針）が作成され、多くの活動が展開されている。
315	22	社会活動、環境改善運動、ボランティア活動等の全学生への奨励、学生及び教員による継続した数多くの活動実績は地域貢献度が高い。
316	22	鈴鹿市との間で官学連携に関する協定書を締結した。三重県生涯学習センターの「みえアカデミックセミナー」への平成16年度からの参加、保育園連盟の研修会、地域企業との交流、セミナー講師担当等、積極的に地域社会との交流活動を実施している。
317	22	地元自治体や商工会議所と包括協定を結んで、組織的に地域社会との交流を深めている。
318	22	地元自治体と協力をして地域住民と学生が受講できる講座を開講している。
319	22	短期大学を地域の生涯学習拠点と位置付け、湖国カルチャーセンターの公開講座を開講している。毎年多数の受講者があり、高齢者等、広く地域社会に教育サービスを提供することで、地域に開かれた短期大学として貢献している。
320	22	図書館司書講習を平成8年度から実施し、平成21年度までに820人の修了者を輩出している。この地域の図書館司書の養成に大きく貢献している。
321	22	京都三大祭のひとつ「祇園祭」の中心地である立地を生かし、1年次の「フレッシュマンゼミ」の内容として「鶏鉾・曳き初め」に参加し、各鉾の保存会によるレクチャーを受け、地域住民との交流を図っている。
322	22	平成18年度より「地域連携推進室」が設置され、「むろまちアートコート」、「化粧文化研究センター」とともに地域との交流・連携に対して組織的に取り組んでいる。京都市の「大学地域連携モデル創造支援事業」に対し、平成19年度に「ポジティブメイク」、平成20年度に「京町屋の坪庭、前栽の植生調査」が採択されて、成果をあげている。
323	22	京都市教育委員会が行っている小学校・中学校・高等学校での学内サポート事業「学生ボランティア」や、観光都市京都という地域性を生かした課外活動団体が行う外国人観光客への英語ガイド活動に対して、大学の支援を行い、単位化されている。
324	22	正規授業に高大連携教育交流協定校（併設高等学校）の高校生を受け入れ実質的な高大連携を図っている。
325	22	特色ある取り組みとして「キャンパス保育授業」が、毎週土曜日、学内で行われている。地域の親子が授業に参加するもので、学生と地域の保育力アップを狙っている。学生は、子どもだけでなく親と向き合うことで、保育者には何が求められているのかを知り、学生の実践力向上と具体的なイメージをつかむ機会となっている。
326	22	授業の一環として、東大阪つどいの広場「きらりっこ」へ学生を派遣している。幼児教育学科の学生が地域との交流を深め、ボランティア活動を通して学生の資質の向上を図っている。短期大学の建学の精神である「萬物感謝・質実勤労・自他敬愛」の精神を、ボランティア活動の実践で体得し、教育者、社会人としての素養を培っている。
327	22	「高槻市地域子育て支援拠点事業ひろば型」運営施設として学内に「どんぐりの森」を開設していることは、地域に開かれた大学としての位置付けを明確にしている。学生と利用者が交流する機会となっている。
328	22	地域の行政や商工団体、周辺の大学等や各種協議会等を通じて積極的な交流を行い、地元企業の特性に配慮した実効性のある地域貢献を行っている。
329	22	「幼児教育研究センター」を開設して、地域社会でのリカレント教育、共同研究、情報発信等を積極的に推進している。
330	22	社会的活動の取り組みは、公開講座、生涯学習授業の開放、コンサートの開催、子育て広場、相談広場、大阪府・奈良県教育委員会後援の公開講座、教員免許更新講習など多岐にわたって地域社会に貢献している。
331	22	ボランティア活動の充実のため「子育て支援実践実習」を開設・単位化して、「こっこスクール」、「親子ふれあい広場」などの活動を実践している。

特に優れた試みと評価できる事項（短期大学基準協会）
評価領域Ⅶ　社会的活動（H17～H22）

No	評価年度	（1）優れた試み
332	22	社会的貢献活動を地方に生きる短期大学の責務であると位置付け、「特別講義」、「学問と人間の探求」でその意義を説明した後、全学生に「ボランティア活動参加証明カード」を配布し、その記録を実習選択や進路選択時の参考資料として活用させるなど組織的な支援を行っている。
333	22	保育科では、ボランティアに参加した後に、活動記録とレポートの提出を義務付けるなど、学生の社会的活動を単位として評価している。
334	22	地域でかわいがられる留学生をモットーに、留学生教育を実施している。十数年の歳月を経て、地元自治体から留学生に種々の派遣依頼が来るまでに至っている。
335	22	組織的な社会的活動が学園の生涯学習研究センターを中心に行われている。学生や地域の人々に多様な学習の機会を提供するとともに、大学における生涯学習に関する研究を発展させつつ、地域における生涯学習社会の実現を図っている。
336	22	国際交流・協力への取り組みは、短期海外研修や海外教育機関との交流があり、実績をあげている。
337	22	生涯学習及び子育て支援を目的として、地域に開かれた公開講座を行っており、多くの地域住民が参加している。また、幼稚園等の他の教育機関に積極的に出向き、交流を深めている。学生は幼児教育研究会を通して、様々な地域行事に積極的に参加するなど、ボランティア活動を活発に行っている。
338	22	福岡県内の女子高校生対象の「英語暗誦コンテスト」など、地域に対し長く地道な貢献が続けられている。
339	22	建学の精神に基づく「心の教育」の実践の場として多くの公開講座を開講し、地域の生涯学習の拠点となる努力を続けている。また、学生の地域活動やボランティア活動は積極的に行われている。
340	22	大学間提携や留学生の受け入れ等、国際交流が活発に行われている。
341	22	当該短期大学では、「尚絅公開講座」と教員免許更新講習を開催しており、地域社会に向けた社会的活動として幅広い市民層からの参加がみられ、積極的に取り組んでいる。